

令和3年度 文部科学省・岐阜県教育委員会指定
道徳教育パワーアップ実践校

大垣市立北中学校 公表会

令和3年11月5日



【資料】 研究紀要

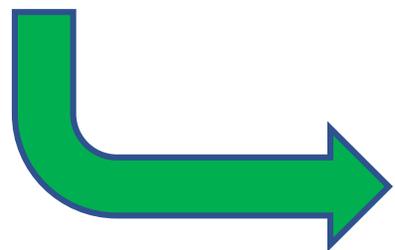
令和3年度 文部科学省・岐阜県教育委員会指定 道徳教育/パワーアップ実践校
大垣市立北中学校 公表会

研究主題
自己を見つめ、よりよい生き方を求める道徳教育
 ～さらに、人間性豊かな実践力のある北中生徒を目指して～

1 期日 令和3年11月6日(金曜日)
 2 会場 岐阜県大垣市立北中学校
 〒503-0018 岐阜県大垣市八島町2290
 TEL 0584-78-3591 FAX 0584-78-3543
 E-mail hitachigaki-city.ed.jp

3 公開授業

学年	科目	単元	公開時間	発表者	研究員	研究員	指導	観覧	録音	録画
1年1組	道徳	A-1(2)	10:00-10:45	山本 悠太						
1年2組	道徳	D-1(1)	10:45-11:30	山本 悠太						
1年3組	道徳	E-1(1)	11:30-12:15	山本 悠太						
1年4組	道徳	A-1(2)	12:15-13:00	山本 悠太						
2年1組	道徳	B-1(1)	10:00-10:45	山本 悠太						
2年2組	道徳	C-1(1)	10:45-11:30	山本 悠太						
2年3組	道徳	D-1(1)	11:30-12:15	山本 悠太						
2年4組	道徳	E-1(1)	12:15-13:00	山本 悠太						
3年1組	道徳	A-1(2)	10:00-10:45	山本 悠太						
3年2組	道徳	B-1(1)	10:45-11:30	山本 悠太						
3年3組	道徳	C-1(1)	11:30-12:15	山本 悠太						
3年4組	道徳	D-1(1)	12:15-13:00	山本 悠太						
特別活動	道徳	E-1(1)	13:00-13:45	山本 悠太						



令和3年度 大垣市立北中学校 **研究の全体構想**

【研究における背景】 求められている道徳

- ・今日、道徳教育の本格的な充実が求められている。その背景として、深刻ないじめの本質的な解決に向き合うこと、決まった正解のない予測困難な時代を生きる生徒を育てることが求められている。そして、自らの人生や社会における答えが決まっていない問いを受け、多様な他者と議論を重ね追究し、「納得解」を得るための資質・能力が求められている。
- ・道徳教育において、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」を目標としており、特に道徳科では「量の確保」と「質の転換」が求められている。

【本校の生徒の風情】

- ・日々の授業に真面目に取り組む生徒が多いが、授業に向き合う姿勢にばらつきがあり、仲間と学び深め合う姿勢を身に付ける必要がある。
- ・多くの生徒が落ち着いた生活することができている。しかし、自己肯定感が低い生徒や自分の将来に夢や希望をもてない生徒もいる。自分に自信をもち、困難の中でも生き抜く力を身に付ける必要がある。
- ・一か一中ということで人間関係が固定しやすい傾向があり、先入観にとらわれた見方をしている生徒がいる。
- ・地域のボランティア活動などに積極的に参加する生徒が多い。

【研究を通して目指す生徒の姿】

- ・道徳的価値について自分との関わりも含めて理解する中で自分のよさや生き方について考え、自己の内面を見つめ、多面的・多角的に考察する姿。
- ・主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者とよりよく生きようとする姿。
- ・多様な生き方と出会い、自己の生き方を真摯に見つめることができる姿。

【研究主題】
自己を見つめ、よりよい生き方を求める道徳教育
 ～さらに、人間性豊かな実践力のある北中生徒を目指して～

【研究内容①】
道徳科を特別活動や生活と関連させ、学校教育全体で道徳教育を推進するための工夫

- 行事や特別活動と道徳を関連させ、意図的に指導する年間指導計画の工夫
- 「いじめ」「生命の尊さ」を大切にした年間指導計画の作成
- 「北辰の誇り」や「北中学校人権の五観点」を核とした特別活動の工夫

【研究内容②】
道徳の諸価値について多面的・多角的に考察し、自己をみつめる授業の工夫

- 主体的に自己の生き方について考えを深める教材・授業指導過程の工夫
- 多面的・多角的に考察することができる指導過程の工夫
- 理想とする学習状況を描いた指導と、その評価の一体化

【研究内容③】
地域や家庭と連携し、特色ある道徳教育の取組の実践

- 地域や家庭と連携し、ともに劇る道徳科の授業
- 小学校、PTAや地域と連携して行うあいさつ活動の充実
- 地域での諸活動やボランティア活動に自主的に参加する生徒の育成

【基盤となる教育活動】

北 辰 の 誇 り

認く・顧る あいさつ プロフェッショナル権限 合臨

北中学校 人権の五観点

行動 言葉 礼節 責任 呼応

家庭

地域

連携して道德性を育む
道德教育

学校

研究主題

自己を見つめ、よりよい生き方
を求める道徳教育

～さらに、人間性豊かな実践力のある
北中生徒を目指して～

北中学校が目指す生徒の姿

- ・ 道徳的価値について自分との関わりも含めて理解する中で自分のよさや生き方について考え、自己の内面を見つめ、多面的・多角的に考察する姿。
- ・ 主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者とよりよく生きようとする姿。
- ・ 多様な生き方と出会い、自己の生き方を真摯に見つめることができる姿。

【研究内容①】

道徳科を特別活動や生活と関連させ、学校教育全体で道徳教育を推進するための工夫

- 行事や特別活動と道徳を関連させ、意図的に指導する
年間指導計画の工夫
- 「いじめ」「生命の尊さ」を大切にした年間指導計画の
作成
- 「北辰の誇り」や「北中人権の五観点」を核とした特別活動
の工夫

【研究内容②】

道徳の諸価値について多面的・多角的に 考察し、自己をみつめる授業の工夫

- 主体的に自己の生き方について考えを深める教材・授業指導過程の工夫
- 多面的・多角的に考察することができる指導過程の工夫
- 理想とする学習状況を描いた指導と、その評価の一体化

【研究内容③】

地域や家庭と連携し、特色ある道德教育の取組の実践

- 地域や家庭と連携し、ともに創る道德科の授業
- 小学校、PTAや地域と連携して行うあいさつ活動の充実
- 地域での諸活動やボランティア活動に自主的に参加する生徒の育成

【研究内容①】

道徳科を特別活動や生活と関連させ、学校教育全体で道徳教育を推進するための工夫

- 行事や特別活動と道徳を関連させ、意図的に指導する
年間指導計画の工夫
- 「いじめ」「生命の尊さ」を大切にした年間指導計画の
作成
- 「北辰の誇り」や「北中人権の五観点」を核とした特別活動
の工夫



道徳科の
授業

特別活動
日常生活・
行事など

【研究内容①】

道徳科を特別活動や生活と関連させ、学校教育全体で道徳教育を推進するための工夫

- 行事や特別活動と道徳を関連させ、意図的に指導する
年間指導計画の工夫
- 「いじめ」「生命の尊さ」を大切にした年間指導計画の
作成
- 「北辰の誇り」や「北中人権の五観点」を核とした特別活動
の工夫

聴く語る

言葉

あいさつ

責任

北辰の誇り
人権の五観点

礼節

行為

呼応

掃除

合唱

地域行事

ボランティア
活動

生活の
記録

聴く語る

言葉

あいさつ

道徳科の
授業

責任

北辰の誇り
人権の五観点

礼節

朝の会・
帰りの会

学級活動

行為

呼応

委員会・
係活動

掃除

合唱

他教科

学校行事

部活動

【資料】 各学年 年間指導計画

関連行事を記載

	関連行事
する態度を	情報モラルのワーク
を襲う。	スポーツの楽しみ
	スポーツの楽しみ
	人権集会
	人権集会
	人権集会
ようとす	
らともに	

令和3年度		第3学年 年間指導計画				ねらい
ターム	実践目標	主題名	内容項目	資料名		
Iターム	・新しい生活の中で、自分を見つめ直し、よりよい生活を求める気持ちを育てる。	道徳の授業はこんな時間に	—	英訳の選択【役・G】	道徳の授業の進め方について理解する。	
		日々を見つめて	A-(2)	早朝ドリブル【役】	生活のリズムの乱れに葛藤する主人公の姿を通して、心身の健康と望ましい生活習慣との関わりを理解し、進んで節度と調和のある生活を営む。	
		情報モラルと友情	B-(8)	合格通知【G・讀】	SNSを使用する際の注意点を考えることを通して、互いの正しい理解によってより豊かな人間関係が築けることが分かり、心から信頼で育てる。	
		伝わるもの	C-(15)	受けつがれる思い	悩み、あきらめかけながらも、最後までサッカー部を続けた主人公たちの姿を通して、互いに協力し合い励まし合ってよりよい校風作りが実現する。	
IIターム	・生活の充実をはかるため、進んで物事に取り組み、責任をもってやり抜く態度を育てる。 ・日常生活の中での様々な取り組みや探活動の中で自分を見つめる心を育てる	心から信じて	B-(8)	ライバルどうしの友情——小平奈緒と李智英	小平選手と李選手の二人の関係を通じて、友情と信頼の意義を理解し、友情を深めようとする態度を育てる。	
		新しいものを発見するために			新しいものを発見するために追究を続ける姿勢百福の姿を通して、真実を大切に、真理を追究して新しいものを生み出すために努力し、諦めず挑戦する態度を育てる。	
		ヤマトさんと、ヤマトさんを支える友人の言動を通して、だれに対しても公正、公平に接し、差別や偏見をなくそうとする態度を養			主人公の心情の変化について考えることを通して、自主的な考えのもとに誠実に実行し、行動の結果に責任をもとうとする心構えを育てる。	人権集会
		中学生が集まりいじめ防止に向けて行った取り組みについて考えることを通して、いじめの問題に向き合い、自主的に考え判断し、誠実に行動する態度を育てる。			中学生が集まりいじめ防止に向けて行った取り組みについて考えることを通して、いじめの問題に向き合い、自主的に考え判断し、誠実に行動する態度を育てる。	人権集会
IIIターム	・身近な経験をもとにして、何事もやり抜こうとする強い心を育てる。	見方を変えれば	A-(3)	ほくにもこんな「よいところ」がある	自信を失いかけていた主人公が友人の言葉によって自己理解と自己受容を深めていく姿を通して、自己を見つめよさに気づき個性を伸ばし、自信を持って生きていく態度を育てる。	
		入っていいなあー思いやりの連続	B-(6)	一冊の漫画雑誌	被災地において自分がすべきことを考え行動しようとしている人たちの気持ちを考えることを通して、思いやりの心をもち互いに助け合い生きていこうとする心構えを育てる。	
		次世代にない手として	C-(10)	缶コーヒー【G】	登場人物の言動についての話し合いを通して公共の場で決まりの意義を理解し、決まりを守ることの大切さを自覚するとともにみんなが守るべきルールを育てる。	
		次世代にない手として	C-(10)	缶コーヒーをめぐるやりとりの場面をやってみよう【役】	缶コーヒーをめぐるやりとりの場面を役割演技することを通して、責任を他人だけに押し付けたり、自分だけでかかえこんだりすることをやめようとする態度を育てる。	人権集会
IVターム	・様々な場面の中で、自分がよりよい人間関係をつくるように努めようとする態度を育てる。	信念をつらぬいて生きる	D-(12)	背番号15がゆんだ道——黒田博樹	ファンを大切に、夢をあきらめず努力した黒田選手の姿に共感し、自分の生き方に誇りをもち、夢や希望のあるよりよい生き方を見いだす。	
		自分の生活を見直して	A-(2)	スマホに夢中【G】	スマホに夢中になり事故を起こしてしまった主人公の行動を通して、心身の健康と望ましい生活習慣との関わりを理解し、進んで安全で健康的な生活を営む。	
		言葉にそえて	B-(7)	言葉おしめ【役】	投げかける言葉と受け止める言葉のやりとりの場面を通して、社会生活の中で礼儀の意義や役割を理解し、時と場に応じた適切な言動を営む。	
		郷土に息づく心にふれて	C-(16)	鳥獣の心を伝えたい	「私」の姿に共感することで、郷土の自然や文化に愛着をもち、先人に対する尊敬や感謝の念を深めるとともに、自らもその発展に努める。	
V	・学級の中でよりよい人間関係をつくり上げようとする態度を育てる。	いのちを考える(1)	D-(19)	生まれてきてくれて、ありがとう——助産師からのメッセージ	出産という母の命がけの共同作業を支える助産師の思いを通して、生命の重さや神秘について考え、かけがえのない自他の生命を尊重しようとする心構えを育てる。	命を守る訓練

タームごと

【資料】 各指導案

「4 道徳の時間（本時）と 他の教育活動との関連」

4 道徳の時間（本時）と他の教育活動との関連		<場の内容・わらわい>	<生徒の意識>	<指導・援助>
<p>■ふるさと大垣科 「地域防災」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「助けられる中学生から助ける中学生に」という視点で、HUGやDICの学習を通して避難所の開設や運営の仕方を学び、社会連携や社会参画の仕方を理解する。 	<p>■日常生活 <挨拶></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での挨拶の活性化が地域でも生き、地域の方々にも進んであいさつをすることで、関わりを強くすることができる。 	<p>・実際に起きた災害を見ると、助けられるだけでなく、自分で備えなければいけないという意識が生まれる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害について知り、特に自分の住む地区での浸水の被害や、避難の仕方、避難所の運営の仕方についてまとめさせる。 ・避難所までのルートを確認し、家族や地域の中に1人で移動できない人を確認させる。 	
<p>■地域奉仕活動 「資源回収・地域防災訓練や清掃活動・一家庭一ボランティア」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方とのふれあいを通して、その温かみを感じるとともに、地域に貢献できる自分を自覚することができるようにする。 	<p><ボランティア活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源回収や切手回収を通して、自分たちの行っているボランティア活動が地域の役に立っていることを自覚する。また、自分にできる簡単なことで助かっている人がいる事実を知ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資源回収は自分たちの学校生活や地域の生活をよくするための活動だから頑張りたい。 ・自分たちの活動が具体的にどんな役に立っているか知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資源回収を通して、地域、学校の活動や生活を豊かにする事実を伝える。 ・資源回収で地域の人と関わりをもつことで感じたことなどを生活の記録にまとめる。 	
<p>■道徳の時間 「加山さんの願い」 内容項目C-（12）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公のボランティア活動に対する心情の変化に 	<p><MSJリーダーズ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・MSJリーダーズの取組を通して、マナー改善や事故防止など呼びかける 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの活動が、地域の支えになっていることが分かった。様々なボランティアに取り組みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人との関わりにより、ボランティアは互いの助け 	

【北中学校 人権の五観点】

行為

言葉

礼節

責任

呼応

ことを考える。また、防災の「共助」の面でも中学生である自分たちの力で地域の被害を抑えられることを知る。

自治体の方だけでなく、自分たちの社会活動の参加も重要な要素であることに気付く。

できることをして、支え合って災害を乗り越えなくてはならない。

支え合いの視点から互いを守り合うために必要なことを考えられるようにする。

【北中学校 人権の五観点】

行為

言葉

礼節

責任

呼応

【資料】

- 3年生別葉
- 3年3組指導案

	第Iターム	第IIターム	第IIIターム	第IVターム	第Vターム	第VIターム
特別の教科 道徳	美談の選択 C-(10) 早稲ドリブル A-(2) 合宿通知 B-(8) 受けつがれる思い C-(15)	ライバルどうしの友情—小平選手と幸祐花 B-(8) 日本から世界へ、そして宇宙へ—インスタントラーメン誕生 A-(5) 無実の罪 C-(11) ある日の午後から A-(1)	ぼくにもこんな「よいところ」がある A-(3) 一番の漫画雑誌 B-(6) 缶コーヒー C-(10) 缶コーヒーをめぐるやりとりの場面をやってみよう C-(10)	背番号15が歩んだ道 D-(22) スマホに夢中 A-(2) 農業おしり B-(7) 鳥羽の心を伝えたい C-(16)	生まれてきてくれて、ありがとう—助産師からのメッセージ D-(19) くちびるに歌をもて D-(19) 人間の命とは—人間の命の尊さ・大切さを考える D-(19) 加山さんの願い C-(12)	増生の種 B-(6) 好きな仕事か安定かなやんでいる C-(13) 伝えたいことがある C-(11) しあわせ B-(9) おたがいの「ちがいがい」を認め合おう B-(9)

道徳科

C-(12) 「加山さんの願い」

理科	1章 生物のふえ方と成長 2章 遺伝の規則性と遺伝子	力だめし、学んだ後にトライ！ 鳥類は恐竜から進化した？ 物質単元 化学変化と単元導入、学ぶ前にトライ 1章 水溶液とイオン	力だめし、学んだ後にトライ！ 化学電池と未来	単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 力の合成と分解 2章 物体の運動 3章 仕事とエネルギー	5章 エネルギー資源とその利用 力だめし、学んだ後にトライ！ エネルギーをみんなに、そしてクリーンに	1章 地球から宇宙へ 2章 太陽と恒星の動き 3章 月と金星の動きと見え方 力だめし、学んだ後にトライ！ 大きさをこえてさぐる太陽系の歴史
音楽	日本の歌のよさや美しさ	音楽の特徴や背景	曲の構成	歌詞と旋律との関わり	学級合唱 総合芸術	日本の伝統音楽
美術	私をアピールするマスコットをつくろう 体ほぐしの運動	私をアピールするマスコットをつくろう 球技:バスケットボール	私をアピールするマスコットをつくろう 水泳	15歳の私～手の塑像～ 陸上競技:長距離走	15歳の私～手の塑像～ 球技:バレーボール・バスケットボール 武道:剣道・柔道 感染症・性感染症・エイズの予防	15歳の私～手の塑像～ 球技:バレーボール・バスケットボール 武道:剣道・柔道 医薬品・保健・医療機関の利用

ふるさと大垣科

「地域防災」

総合的な学習	自分づくり	キャリア 進路説明会	修学旅行	修学旅行	キャリア	キャリア
ふるさと大垣科	地域防災 自然災害情報	地域防災 地域の危険を知る	地域防災 避難場所の確認	地域防災 避難所運営ゲーム	地域防災 訓練に向けた分担	地域防災 実地訓練
地域・家庭との連携	北地区親子運動会 家庭訪問	合同資源回収	小中合同子ども会 個人懇談			北地区防災訓練

【資料】

・ 3年2, 3組指導案

ふるさと大垣科
「地域防災 (HUG)」

地域奉仕作業
「資源回収、地域防災訓練、
一家庭一ボランティア」

道徳の時間
「加山さんの願い (C-12)」

総合的な学習
「防災力の高い街づくり」

4 道徳の時間(本時)と他の教育活動との関連

<場の内容・わらわ>

<生徒の意識>

<指導・援助>

■ふるさと大垣科

「地域防災」
・「助けられる中学生から
助ける中学生に」という
視点で、HUGやDICの
学習を通して避難所の開
設や運営の仕方を学び、
社会連携や社会参画の仕
方を理解する。

■地域奉仕活動

「資源回収・地域防災訓練
や清掃活動・一家庭一ボ
ランティア」
・地域の方とのふれあいを
通して、その温かみを感じ
るとともに、地域に貢献
できる自分を自覚するこ
とができるようになる。

■道徳の時間

「加山さんの願い」
内容項目C-(12)
・主人公のボランティア活
動に対する心情の変化に
ついて話し合うことを通
して、自分の地域に対す
る関わり方を見つめ、よ
りよい社会を築こうとす
る態度を育てる。

■総合的な学習

「防災力の高い街づくり」
・地域の特性を知り、防災
のために自分ができる
ことを考える。また、防
災の「共助」の面でも中
学生である自分たちの
力で地域の被害を抑え
られることを知る。

■日常生活

「挨拶」
・学校での挨拶の活性
化が地域でも生き、
地域の方々にも進
んであいさつをす
ることで、関わりを
強くすることができる。

■ボランティア活動

・資源回収や切手回収
を通して、自分たち
の行っているボラン
ティア活動が地域の
役に立っていること
を自覚する。また、自
分にできる簡単なこ
とで助かっている人
がいる事実を知ること
ができる。

■MSJリーダーズ

・MSJリーダーズの
取組を通して、マナ
ー改善や事故防止
などと呼びかける
ことで、地域とのつ
ながりを生むこと
ができる。

■教科

■社会科

・公民の学習を通し
て、よりよい社会を
つくっていくのは
自治体の方だけで
なく、自分たちの社
会活動の参加も重
要な要素であるこ
とに気付く。

・実際に起きた災害を
見ると、助けられる
だけでなく、自分で
備えなければいけ
ないという意識が生ま
れる。

・資源回収は自分たち
の学校生活や地域
の生活をよくする
ための活動だから
頑張りたい。
・自分たちの活動が具
体的にどんな役に
立っているか知り
たい。

・ボランティアの活動
が、地域の支えにな
っていることが分か
った。様々なボラン
ティアに取り組みた
い。
・これから、ボラン
ティア活動以外にも
地域との関わりをも
てるようにしたい。

・防災は個人の意識だ
けではなく、積極
的な社会連携が必要。
中学生の自分たちに
できることをして、
支え合って災害を乗
り越えなくてはいけ
ない。

・災害について知り、
特に自分の住む地区
での浸水の被害や、
避難の仕方、避難所
の運営の仕方につ
いてまとめさせる。
・避難所までのル
ートを確認し、家族や
地域の中に1人で移
動できない人を確認
させる。

・資源回収を通して、
地域、学校の活動や
生活を豊かにする
事実を伝える。
・資源回収で地域の
人と関わりをもつ
ことで感じたこと
などを生活の記録
にまとめる。

・地域の人との関わり
により、ボラン
ティアは互いの助け
合いが必要である
と気付く主人公に
共感させることで、
地域へのよりよい
関わり方を考えら
れるようにする。

・災害を乗り越える
ための街の設備だ
けでなく、地域との
支え合いの視点か
ら互いを守り合う
ために必要なこと
を考えられるよう
にする。

HUG (避難所運営ゲーム)



【資料】

・ 3年2, 3組指導案

ふるさと大垣科
「地域防災 (HUG)」

地域奉仕作業
「資源回収、地域防災訓練、
一家庭一ボランティア」

道徳の時間
「加山さんの願い (C-12)」

総合的な学習
「防災力の高い街づくり」

4 道徳の時間(本時)と他の教育活動との関連

<場の内容・わらわ>

■ふるさと大垣科
「地域防災」
・「助けられる中学生から
助ける中学生に」という
視点で、HUGやDICの
学習を通して避難所の開
設や運営の仕方を学び、
社会連携や社会参画の仕
方を理解する。

■地域奉仕活動
「資源回収・地域防災訓練
や清掃活動・一家庭一ボ
ランティア」
・地域の方とのふれあいを
通して、その温かみを感じ
るとともに、地域に貢
献できる自分を自覚する
ことができるようにする。

■道徳の時間
「加山さんの願い」
内容項目C-(12)
・主人公のボランティア活
動に対する心情の変化に
ついて話し合うことを通
して、自分の地域に対す
る関わり方を見つめ、よ
りよい社会を築こうとす
る態度を育てる。

■総合的な学習
「防災力の高い街づくり」
・地域の特性を知り、防災
のために自分ができる
ことを考える。また、防
災の「共助」の面でも中
学生である自分たちの
力で地域の被害を抑え
られることを知る。

■日常生活
《挨拶》
・学校での挨拶の活性
化が地域でも生き、
地域の方々にも進
んであいさつをす
ることで、関わりを
強くすることができる。

《ボランティア活動》
・資源回収や切手回収
を通して、自分たち
の行っているボラン
ティア活動が地域の
役に立っていること
を自覚する。また、自
分にできる簡単なこ
とで助かっている人
がいる事実を知ること
ができる。

《MSJリーダーズ》
・MSJリーダーズの
取組を通して、マナ
ー改善や事故防止
など呼びかける
ことで、地域とのつ
ながりを生むこと
ができる。

■教科
《社会科》
・公民の学習を通し
て、よりよい社会を
つくっていくのは
自治体の方だけで
なく、自分たちの社
会活動の参加も重
要な要素であるこ
とに気付く。

<生徒の意識>
・実際に起きた災害を
見ると、助けられる
だけでなく、自分で
備えなければいけ
ないという意識が生ま
れる。

・資源回収は自分たち
の学校生活や地域
の生活をよくする
ための活動だから
頑張りたい。
・自分たちの活動が具
体的にどんな役に
立っているか知り
たい。

・ボランティアの活動
が、地域の支えにな
っていることが分か
った。様々なボラン
ティアに取り組みた
い。
・これから、ボラン
ティア活動以外にも
地域との関わりをも
てるようにしたい。

・防災は個人の意識だ
けではなく、積極
的な社会連携が必要。
中学生の自分たちに
できることをして、
支え合って災害を乗
り越えなくてはいけ
ない。

<指導・援助>
・災害について知り、
特に自分の住む地区
での浸水の被害や、
避難の仕方、避難所
の運営の仕方につ
いてまとめさせる。
・避難所までのル
ートを確認し、家族や
地域の中に1人で移
動できない人を確
認させる。

・資源回収を通して、
地域、学校の活動
や生活を豊かにす
る事実を伝える。
・資源回収で地域の
人と関わりをもつ
ことで感じたこと
などを生活の記録
にまとめる。

・地域の人との関わり
により、ボラン
ティアは互いの助け
合いが必要である
と気付く主人公に
共感させることで、
地域へのよりよい
関わり方を考えら
れるようにする。

・災害を乗り越える
ための街の設備だ
けでなく、地域との
支え合いの視点か
ら互いを守り合
うために必要な
ことを考えられる
ようにする。



貸し借りじゃないけれど、人にいいことをしたら、その人も助けてくれると信じて、地域でも対等な関係を築いていきたい。

【研究内容①】

道徳科を特別活動や生活と関連させ、学校教育全体で道徳教育を推進するための工夫

- 行事や特別活動と道徳を関連させ、意図的に指導する年間指導計画の工夫
- 「いじめ」「生命の尊さ」を大切にした年間指導計画の作成
- 「北辰の誇り」や「北中人権の五観点」を核とした特別活動の工夫

【資料】
各学年年間指導計画

「いじめ」に関する資料
「生命の尊さ」に関する資料...

...第Ⅱターム
第Ⅴターム

第1学年 年間指導計画

第Ⅱターム	・生活の充実を図るため、進んで物事に取り組み、責任をもってやり抜く態度を育てる。 ・日常生活の中で様々な取り組みや係活動の中で自分を見つめる心を育てる。	ふるさとのために	C-(1)B	ほくのふるさと	ふるさとを愛し、ふるさとのためにできることをしたいと願う作者に共感することで、郷土意識を深め、進んで地域の発展に努めようとする態度を育てる。	
		いじめのない世界へ(1)	B-(9)	いじめに当たるのはどれだろう	いじめに当たる行為や判断の根拠について考えることを通して、人にはいろいろな見方や考え方がることを理解し、相手の立場や個性を尊重しようとする態度を育てる。	人権委員会
		いじめのない世界へ(2)				

第2学年 年間指導計画

第Ⅲターム	・生活の充実を図るため、進んで物事に取り組み、責任をもってやり抜く態度を育てる。 ・日常生活の中で様々な取り組みや係活動の中で自分を見つめる心を育てる。	本当の友情とは	B-	本当の友情とは		
		たがいに支え合う社会				
		心から信じ合える友を	B-(8)	心から信じ合える友を		友情を深めようとする意欲を育てる

第3学年 年間指導計画

第Ⅲターム	・生活の充実をはかるため、進んで物事に取り組み、責任をもってやり抜く態度を育てる。 ・日常生活の中で様々な取り組みや係活動の中で自分を見つめる心を育てる。	心から信じ合える友を	B-(8)	心から信じ合える友を	友情を深めようとする意欲を育てる。	スポーツの楽しみ
		新しいものを生み出すには	A-(5)	新しいものを生み出すには	の姿を通して、真実を大切に、真実を探求して新しいものを生み出すために努力しようとする意欲を育てる。	
		いじめのない世界へ(1)	C-(1)1	いじめのない世界へ(1)	を通して、誰に対しても公正、公平に接し、差別や偏見をなくそうとする態度を育てる。	人権委員会

全校で統一

「いじめ」に関する資料

...第Ⅱターム

1年生道徳

♥ 主題名 「いじめのない世界へ」
内容項目 B-(9)
資料名 『いじめに当たるのはどれだろ?』



自分がされて嫌なことを 目で見える形で表すこと, 笑顔だけと本当は 嫌かもしれないので、自分がされて嫌なことは、絶対にしてはいいないと思いましたが、嫌な行動する 思いました。

2年生道徳

♥ 主題名 「いじめのない世界へ」
内容項目 A-(1) 自主、自律、自由と責任
資料名 『あの子のランドセル』

〈みんなの心に残った言葉〉

- あの子の心の傷は一生消えない。
- 「大丈夫」と言っているけど、本当は大丈夫じゃないこともある。
- いじめは誰もいい思いしない。
 - ・ 被害者はもちろん
 - ・ その家族も悲しい
 - ・ 後悔、反省する加害者も

自分の言葉、行為は責任をもたなくてはいいけない



全校で統一

1年2組 「決断！ 骨髄バンク移植第一号」



1年3組 「決断！ 骨髄バンク移植第一号」



3年1組 「生まれてきてくれてありがとう」



3年4組 「人間の命とは一人間の命の尊さ・大切さを考える」



【研究内容②】

道徳の諸価値について多面的・多角的に 考察し、自己をみつめる授業の工夫

- 主体的に自己の生き方について考えを深める教材・授業指導過程の工夫
- 多面的・多角的に考察することができる指導過程の工夫
- 理想とする学習状況を描いた指導と、その評価の一体化

3年2・3組 「加山さんの願い」



1年3組 「決断！骨髄バンク移植第一号」



1年2組 「決断！ 骨髄バンク移植第一号」



【資料】

3年1組指導案

D- (19) 生命の尊さ

「生まれてきてくれてありがとう」

道徳の時間 D- (19) ⊖

「生まれてきてくれてありがとう」

道徳の時間 D- (19) ⊖

「くちびるに歌をもて」

道徳の時間 D- (19) ⊛

「人間の命とは」

4 道徳の時間(本時)と他の教育活動との関連

<場の内容・ねらい>

■**学校活動**
 「人権集会に向けて」
 ・北中人権の五観点をもちとして成果と課題を明らかにするとともに、人権感覚をさらに高める取組を行うことで、より温かい仲間関係を築く。

■**道徳の時間**
 「生まれてきてくれて、ありがとー助産師からのメッセージ」
 内容項目 D- (19)
 ・助産師や出産を経験した方が向き合っている「命」への思いを考えることを通して、生命誕生の奇跡、連続性、有限性を理解し、自他の生命を尊重して生きようとする心情を育てる。

■**道徳の時間**
 「くちびるに歌をもて」
 内容項目 D- (19)
 ・極限の状況にあっても自らの生命の力を信じ、互いに支え合って生きぬいた人々の姿を通して、どんなに困難な状況であっても、自己の生命を守り、大切に生きていこうとする態度を育てる。
 「人間の命とはー人間の命の尊さ・大切さを考える」
 内容項目 D- (19)
 ・尊厳死をめぐる裁判をもとに、生命の尊厳についてさまざまな立場から多面的・多角的に考え、生命倫理について関心を深めるとともに、自他のかけがえのない生命を尊重しようとする態度を育てる。

■**学校行事**
 「人権集会」
 ・人権について仲間と話し合ったり、取り組んだりすることで考えを深め、日常生活において人権を大切にしようとする態度を育てる。

■**日常生活**
 <生活の記録>
 ・進路や生き方等に関する考えや悩み、相談に真摯に向き合い、教師とのやりとりをすることで、悩みながらもよりよい自分に成長しようとして前向きに取り組む。

■**朝の会・帰りの会**
 ・「先生の話」で、生命尊重に関わる時事問題等の話を聞いたり、話し合ったりすることを通して、かけがえのない生命を大切に生きていこうという意欲を高めるとともに、命あるものすべて平等であり、すべての生命がかけがえのないものであることへの理解を深める。

■**教育相談**
 ・教師とじっくり話す中で、自分のよさを認めたり、悩みが解決できるよう一緒に考えたりし、自分の存在意義を実感し、苦しいことから逃げずにがんばろうとする意欲を高める。

■**教科**
 <保健体育>
 ・「健康な生活と病気の子供」では、かけがえのない健康がどのように成り立っているのか学習する。また、健康の増進、病気の子供の治療をするための社会の仕組みも学習し、共に健康と命を守ろうとする知識と意欲を高める。

<生徒の意識>

・今までの自分は人権の五観点の「責任」を大切に生活できた。
 ・人権集会に向けて、仲間を大切に「行為」ができるよう取り組みたい。

・新しい生命の誕生は奇跡であり、一つの命が生まれるまでに多くの命がつながっている。そして、その命は永遠ではない。だからこそ、自分の命も他人の命も大切にしなければいけない。

・どんなに苦しくても、生きることを自分から諦めてはいけない。
 ・「生命倫理」にまで踏み込んで考えたことはあまりない。
 ・自分の命も周りの命もかけがえのないものだから大切にしなければいけない。

・今までも人権を大切にきたつもりだったが、さらに大切にしたい。
 ・かけがえのない仲間との温かい関係を大切に、誰に対しても親切に接していきたい。

<指導・援助>

・今までの学級での生活を人権の五観点をもとに振り返り、よさ・がんばりを認める。
 ・課題はどのように克服するとよいか考えさせ、充実した取組ができるようにする。

・生命誕生には、多くの人々が支え合っていることに気付かせる。
 ・生命誕生に伴う喜びや感動、重責に気付かせる。
 ・すべての命はみな平等で、尊重されなければならないことに気付かせる。

・生きる希望や勇気をもち、自分を信じて生き抜く素晴らしさに気付かせる。
 ・命についての多様な考えを交流することにより、「人間の命」を大切にすることへの本質に迫り、生命尊重への学びをより深めたい。

・人権について改めて考え、取り組むことを通して、かけがえのない仲間との温かい関係を創っていくようとする態度を育てる。

【資料】

3年1組指導案

D- (19) 生命の尊さ

「生まれてきてくれてありがとう」

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	1. 価値に関わる自分の感じ方 ○自分が生まれてきたことに感謝の気持ちがあります。 ・予想される反応	発表させないよ
展開前段	○お母さんは、自分の子を初めて抱いた時、どんな気持ちになっただろう。 (ゲストティーチャーの話を聴く。)	喜びや感動、重責は多くの支えがあったことと理解させる。また、助産師は生命誕生の奇跡、生命の連続性、有限性に気付かせる。 ・妊娠が分かった時やお腹の中にいる時、出産した時



○お母さんは、自分の子を初めて抱いた時、どんな気持ちになっただろう。

(ゲストティーチャーの話聴く。)

- ・かわいい。愛しい。
- ・大切にしよう。守っていこう。
- ・両親に感謝したい。
- ・大切に守ってもらった。
- ・苦勞して産んでもらった。
- ・いただいた命を大切に生きていきたい。
- ・自分だけではなく、周りの人の命も大切にしたい。
- ・人と接する時に、その人の後ろにはその人を大切に思う人がいることを忘れずに接していきたい。

- ・妊娠が分かった時やお腹の中にいる時、出産した時の気持ちについて話してもらおう。
- ・実際に出産を経験した方の話から、出産時の気持ちを考えさせることで、親にとってわが子は何者にも代えがたい唯一無二の存在であることに気付かせ、同じ生命でも助産師とは違う捉え方をしていることを理解させる。

- ・自分だけでなく、この世に存在する全ての命がこのようにして生まれ、育ってきたことを実感させる。

出産時の気持ちわが子は何者にもことに気付かせ、え方をしているこ
る全ての命がこのとを実感させる。生命の「奇跡」「連の生き方を考え、
立場に立って、性について理解方について考え
人間の生死の重さ、自他の生命を尊

お母さん達は大きな責任を感じて
子どもをとても大切にしてい
た。自分
にしないで
人への感
ない。

助産師さんがすごく責任を
感じるほど、命って大切に
かけがえのないものだと
思った。自分が今、幸せに
生きていることって奇跡な
んだなあ。

子どもを産むときだけでなく、産むまでの期間もお母さん達は、
大きな責任を感じて、子どものことをとても大切にしていた。
自分もお母さんがそんなにも多くの苦痛をかけて自分を産
んでくれたのだということを知って命の大切さを改めて実感
した。だから、自分
ないし、周りの人

いであうにまか
今、幸せに生まれ
と、命って大切
さいたいと思
守り、一番大切
の家は、生
自

【研究内容②】

道徳の諸価値について多面的・多角的に 考察し、自己をみつめる授業の工夫

- 主体的に自己の生き方について考えを深める教材・授業指導過程の工夫
- 多面的・多角的に考察することができる指導過程の工夫
- 理想とする学習状況を描いた指導と、その評価の一体化

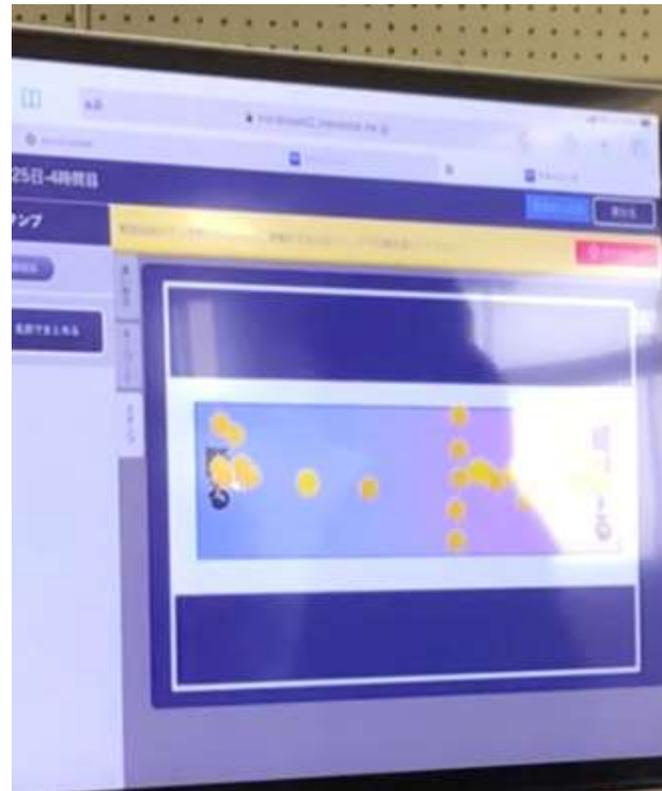
【心情円】

- ・ 自分の気持ちの割合を示す



【タブレット ムーブノート（ミライシード）】

- ・ 仲間の気持ちやその変容を一度に見る
- ・ 授業者は誰の意見か追跡する



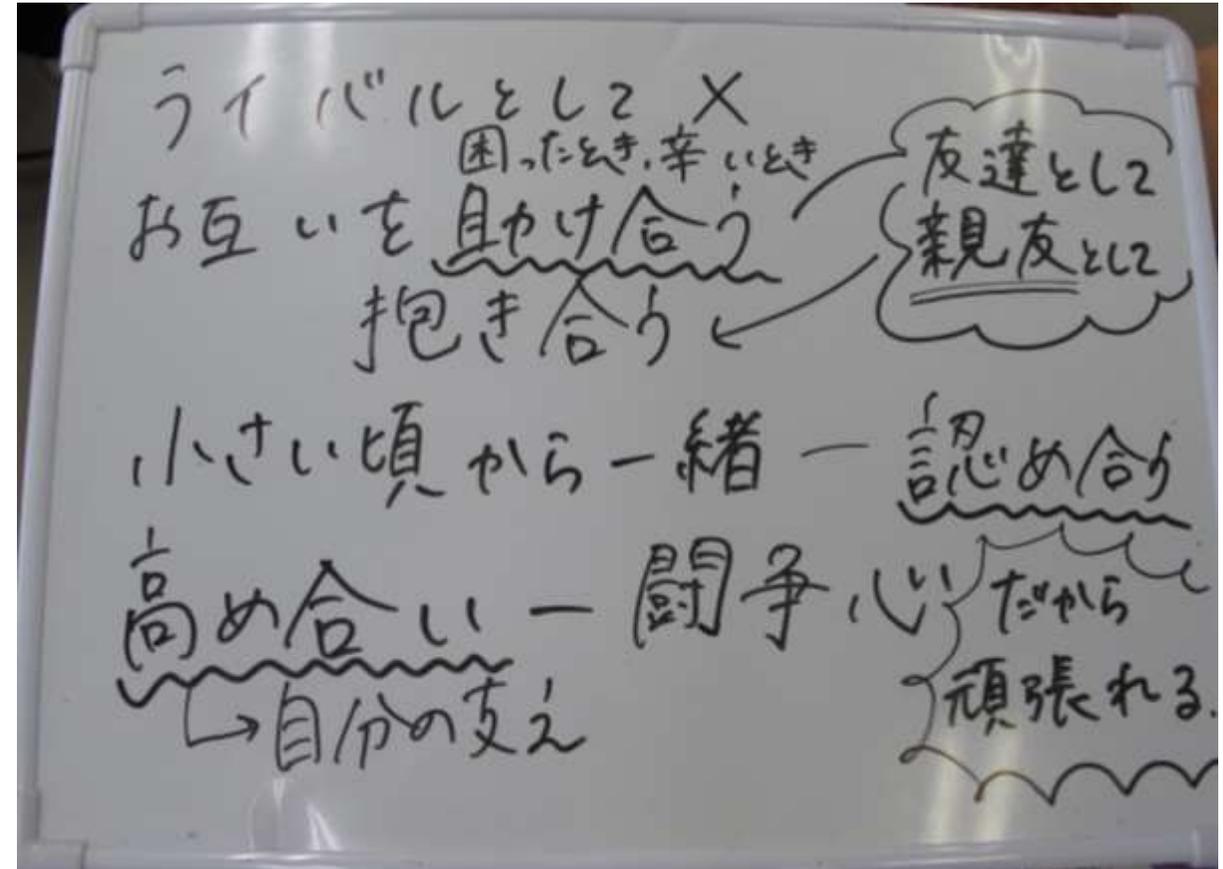
【役割演技】

- ・ その立場に立って、感じ方の違いを知る
- ・ 試行錯誤しながら、問題解決を試す



【ホワイトボード】

- ・ 小集団で全員が意見を話せる
- ・ 話し合いの視点をもって意見を深める



【タブレット オクリンク (ミライシード)】 全員の考えを一度に知り、考えを深める



【資料】

3年4組指導案

D- (19) 生命の尊さ

「人間の命とは一人間の命の尊さ・大切さを考える」

道徳の時間 D- (19) ⊖
「生まれてきてくれてありがとう」

道徳の時間 D- (19) ⊕
「くちびるに歌をもて」

道徳の時間 D- (19) ⊛
「人間の命とは」

4 道徳の時間(本時)と他の教育活動との関連

<場の内容・ねらい>

■ふるさと大垣科
「HUG(避難所運営ゲーム)」
・「HUG」の体験を通して、自分たちの生活する地域を想定し、具体的に自他の生命を守る行動はどのようにしたらよいか考える。

■道徳の時間
「生まれてきてくれて、ありがとう」
内容項目 D- (19)
・助産師や出産を経験した方が向き合っている「命」への思いを考えることを通して、生命誕生の奇跡、連続性、有限性を理解し、自他の生命を尊重して生きようとする心情を育てる。
「くちびるに歌をもて」
内容項目 D- (19)
・極限状況にあっても自らの生命の力を信じ、互いに支え合って生きてきた人々の姿を通して、どんなに困難な状況であっても、自己の生命を守り、大切に生きていこうとする態度を育てる。

■道徳の時間
「人間の命とは一人間の命の尊さ・大切さを考える」
内容項目 D- (19)
・尊厳死をめぐる裁判をもとに生命の尊厳についてさまざまな立場から多面的・多角的に考え、生命倫理について関心を深めるとともに、自他のかけがえのない生命を尊重しようとする態度を育てる。

■学校行事
「人権集会」
・人権について仲間と話し合ったり、取り組んだりすることで考えを深め、日常生活において人権を大切にしようとする態度を育てる。

■日常生活
<進路実現に向けて>
・自分がどのように生きていきたいかという将来の展望を具体的にもち、実現に向けて今の自分がすべきことを考え、実行する。また、同じ願いの仲間を認め、励まそうという意識をもつ。
<朝の会・帰りの会>
・生活班での「班会議」で、毎日の目標を確認し、仲間と意識を共有する。また、班の仲間と交流をもつことで互いに理解し合い、仲間を大切にしなければならぬという意識をもつ。

■教科
<社会科>
・「人権と共生社会」の学習では、基本的人権の尊重とはどのような考え方、どのような役割を果たしているのかを学び、生活の様々な場面で尊重されるべき大切なものであるという意識をもつ。
<保健体育科>
・「健康な生活と病気の増進・病気の予防や治療をするための社会の仕組みを学習し、共に健康と命を守ろうとする知識と意欲を高める。
<技術・家庭科>
・「家族・家庭と地域」の学習では、「共生」の意識をもって家族や地域と積極的に関わろうという心情を育てる。

<生徒の意識>

・防災に関わって、自分で考えて行動し、自分の命は自分で守らなければならないという意識はあまりない。

・新しい命の誕生は奇跡であり、一つの命が生まれるまでに多くの命がつかっている。そして、その命は永遠ではない。だからこそ、自分の命も他人の命も大切にしなければいけない。
・どんなに苦しくても、生きることを自分からあきらめてはいけない。

・「生命倫理」にまで踏み込んで考えたことはあまりない。
・自分の命も周りの命もかけがえのないものだから大切にしなければいけない。

・人権は、人間が人間らしく生きる権利で、全ての人に保証されているものだから、大切にしなければいけない。
・かけがえのない仲間と温かい関係を築くために自分から行動していきたい。

<指導・援助>

・防災に関わって、自ら行動できるような災害時の対応の正しい知識を身に付けさせる。
・積極的に支え合い、協力する経験や機会を積みませ、自他の命を守ろうとする意識をもたせる。

・生命は、多くの人々に支えられて誕生していることに気付かせる。
・生命誕生に伴う喜びや感動、責任に気付かせる。
・すべての命はみな平等で、尊重されなければならないことに気付かせる。

・命についての多様な考えを交流することにより、「人間の命」を大切に「する」ことへの本質に迫り、生命尊重への学びをより深めさせる。

・人権について改めて考え、取り組むことを通して、かけがえのない仲間とのより温かい関係を築くために自分から行動していきたいという態度を育てる。

【資料】

3年4組指導案

D- (19) 生命の尊さ

「人間の命とは一人間の命の尊さ・大切さを考える」

◎カレンさんの「命を大切にすること」は、どういうことだろう。

- ・カレンさんの命を大切にすることとは、カレンさんのことを心から大切に思って、どうすることがカレンさんのために最もよいのか信念をもって決めることだと思う。
- ・カレンさんの命を大切にすることとは、カレンさんの人間性も含めて尊重して大切にすることだと思う。カレンさんの今までの生き方から、どうするのが一番よいかを考えるべきだ。

5 本時の展開

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	1. 価値に関わる自分の感じ方・考え方をもち。 ○「人間の命」とは何か。 ・人間が生きているということ。 ・自分の意思で行動し、生きている人間。	・前時、前々時のまとめや1・2年生での命に関する学習、他教科での「命」に関する学習など、これまで様々な角度から取り組んできた命に関する学習を想起させ、「命」について多角的に考えて学習できるようにする。
展開前段	2. 資料「人間の命とは一人間の命の尊さ・大切さを考える」を読み、話し合う。 ○医療措置を打ち切るようお願いしたカレンさんの両親と、医療措置の打ち切りを認めなかったカレンさんの主治医や、州の裁判所の方々は、それぞれどのような思いだったのだろう。また、どちらにより共感できるだろう。 ・カレンさんの両親は、機械で生かされている姿は、人間として生きているとは言えないし、この状態を本人も望んでいないだろうから医療措置を打ち切りたかった。 ・カレンさんの主治医や、州の裁判所の方々は、回復の可能性がないわけではないし、今生きている命を死なせてはいけないという思いから医療措置の打ち切りを認めなかった。	・教師の範読を聞きながら、「わかる」「どうして」と思う部分に線を引かせて、交流する。 ・カレンさんの状態を補足説明してカレンさんの状況を理解したり、それぞれの立場の考えを板書に位置付けたりして、状況を整理した上で考えられるようにする。 ・カレンさんの両親と、主治医や裁判所の方々のどちらにより共感できるかを、カードに示して提出させる。自分や仲間の考えを明確にした上で話し合えるようにする。(タブレット使用) ・双方の考えを交流することで、「命を大切にすること」の意味の捉えが難しく、選択をより難しくさせていることに気付かせ、次の発問につなげる。
展開後段	◎カレンさんの「命を大切にすること」は、どういうことだろう。 ・カレンさんの命を大切にすることとは、カレンさんのことを心から大切に思って、どうすることがカレンさんのために最もよいのか信念をもって決めることだと思う。 ・カレンさんの命を大切にすることとは、カレンさんの人間性も含めて尊重して大切にすることだと思う。カレンさんの今までの生き方から、どうするのが一番よいかを考えるべきだ。	オクリンクのカードに自分の考えを書いて提出し、クラスで共有する。(タブレット使用) 自分の考えと比べながら仲間のカードを読む。 仲間の様々な意見を知る中で、「命を大切にすること」は、単に生き物として生きている命を大切にすることだけでなく、人間性も含めて尊重することであることに気付かせる。
終末	3. 本時の学習を振り返る。 ○自分や周りの「命を大切にすること」を意識して、これからどのような行動をとればよいだろう。 ・「命」を大切にすることとは、生きている日々の中身を大切にすることだと思った。自分が今生きているのは、奇跡のようなつながりの上で命があるおかげなので、限りある命を大切にするために、自分の目標に向かって一日一日を精一杯生きていきたい。 ・「命」の学習を通して、自分の命は周りの人との関わりの中で生きている命なのだった。そんな命を大切にするために、家族や友だちのことが理解できるような関わりをもち、思いを尊重し合って生きていきたい。	・これまでの「命」に関する学習の総括として、これまで考えてきた「命の大切さ」に加えて、本時考えた「命を大切にすることはどういうことか」を踏まえ、これから自分がどのような行動をとるのかを考え、記述させる。 【評価の視点】 「命」についての学習やこれまでの自分自身を振り返り、自他の「命を大切にすること」を意識して、これからどのように行動すればよいか考えている。
終末	4. 教師の話を聞く。	・「命を大切にすること」が自分や周りを大切にすることにつながるという希望をもたせるような話をし、話を聞く。

【研究内容②】

道徳の諸価値について多面的・多角的に 考察し、自己をみつめる授業の工夫

- 主体的に自己の生き方について考えを深める教材・授業指導過程の工夫
- 多面的・多角的に考察することができる指導過程の工夫
- 理想とする学習状況を描いた指導と、その評価の一体化

日時 令和3年11月5日(金)
 場所 2年
 授業者 小川

- 1 主題名 よりよい社会を目指して
- 2 資料名 住みよい社会に
- 3 主題構成表

■内容項目
 C- (12) 社会参画、公共の精神
 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。

■価値の分析
 ・社会を構成する一人一人が安心・安全によりよく生活するためには、社会の形成を人任せにするのではなく、主体的に参画し、社会的な役割と責任を果たすことが大事になる。また、共に手を携え、協力し、互いに安心して生活できる社会を創っていくとする自覚が出てくる。
 ・学年が上につれて、関わる人が限られていくと、社会が希薄になったり、一部に集中しやすくなる。その中で、活動やボランティア活動を通して、社会を創っていくことが大切になる。

■内容項目から見た生徒の実態
 ・互いに安心して生活できる学校・社会を望んでいるが、よくするために何をすべきか、主体的に考える生徒は少ない。
 ・よりよい学級をつくろうと生徒会活動に取り組む生徒もいるが、自分の仕事さえやればよいと思っている生徒もいる。また、学校でのあいさつ運動などに参加する生徒は多い一方で、地域の清掃活動や行事などでボランティア活動に参加する生徒は少ない。
 ・周りに迷惑をかけなければよいという意識の生徒がいる。

■要因
 ・同じ地域に学校の仲の良いボランティア活動をするのは嫌いな生徒もいる。また、地域のことを考えると、迷惑をかけないよう活動する機会が減っている。

生徒の実態とその要因

動がカメラで監視されることに抵抗を感じ、住みよい社会にするために必要なことを考えることができない。また、マナーの向上や分別ルールを守るなど、住みやすい環境を整えるために監視カメラを設置しているが、よりよい社会の実現には、カメラで監視することより社会連帯の自覚や公共の精神が必要であることに気付かせたい。
 ・よりよい社会を実現するには他人に迷惑をかけないことにとどまらず、社会に関心をもち、社会連帯の自覚を高めようとする意欲につなげたい。

価値の分析

■ねらい
 住みやすい社会をつくるためには、周りの人たちのことを考えた行動をすることと自分から積極的に関わろうとすることが必要だと気付く、これからの学校生活や地域の活動で実行しようとする態度を育てる。

■展開の構想
 ・参加する生徒の意向を聞き、必要に応じて、防犯カメラの設置や、集まりのルール作りなどについて、話し合う。
 ・「誰もが住みやすい社会」をつくるためには、人に迷惑をかけない行動をすることだけではないことに気付く。
 ・授業を通して意識の変化を確認し、これからの生活で大切にしたいことをまとめる。

ねらい

■基本発問 (◎中心発問)
 ○学級のために、自分から呼び掛けているか。また、地域のボランティア活動に参加したことはあるか。
 ○防犯カメラを設置することについて、賛成か、反対か。
 ◎「誰もが住みやすい社会」をつくるために必要なことは何か。
 ○これからの生活で、どんなことを大切にしたいか。

理想とする学習状況

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	1. 価値に関わる自分の行動や考えを振り返る。 ○学級のために、自分から呼び掛けているか。また、地域のボランティア活動に参加したことはあるか。 ・学級をよくしたいから、呼び掛けをしている。 ・少しでも地域の役に立ちたいから、参加した。 ・誰かがやってくれるから、参加していない。	・事前にアンケートを行う。 ・行動の裏にある思いを共有させる。
展開前段	2. 資料を読み、話し合う。 ○防犯カメラを設置することについて、賛成か、反対か。 ・安心するから、賛成。 ・監視されてるみたいで嫌だから、反対。 ・確かに悪いことをする人は少なくないけど、見張られてるみたいで嫌だから少し反対。 ・監視カメラはあった方がいいとは思うけど、気分はよくない。 ・みんながルールを守れば、監視カメラは必要ないと思う。 ・監視カメラがなくても、自分たちで声を掛け合って安心できるように生活すればいい。 ◎「誰もが住みやすい社会」をつくるために必要なことは何か。 ・自分勝手な行動をせず、ルールを守って人に迷惑をかけないようにする。 ・相手や周りの人たちの気持ちを考えて、周りの人たちが迷惑をしないような行動をする。	・範読前に「地域社会の防犯カメラ設置についての話である」ことを伝え、範読後に、新聞記事の事例にはどのような問題があったか、誰もが安心して生活できる社会にするにはどうしたらいいか考えさせる。 ・カードに自分の考えを書いてから、クラスで共有する。共有したカードをもとに交流し、多様な意見を取り入れさせる。(タブレット使用) ・「誰もが住みやすい社会」をつくるためには、人に迷惑をかけない行動をすることだけではないことに気付かせる。 【評価の視点】 仲間との交流を通して、「誰もが住みやすい社会」をつくるためには、周りの人たちのことを考え行動することや、自分から積極的に他者や社会と関わろうとすることが大切だと気付いている。
展開後段	これからは、居心地のよい学級にするために、人任せにせず責任ある行動をしようと思う。また、地域のボランティア活動に参加したい。 ・これまでの、学校のあいさつ運動やボランティア活動に参加してなかった。これからボランティア活動に積極的に参加したい。	・アンケートに立ち戻り、これまでの生活の中での自分たちの考えから、これから生活で、大切にしたいことを考えさせる。 ・振り返り用紙に、「これから」について、具体的な行動を記入させる。
終末	4. 教師の話を聞く。	

指導の手立て

評価の視点

【資料】

2年1組指導案

B- (9) 相互理解、寛容 「遠足で学んだこと」

- ・ 仲間の言動に注意をしたり、声を掛けたりする一方で、仲間との衝突を避けるために自分の考えを直接伝えなかったり、自分の思いを優先して相手の意見を聴こうとしなかったりする生徒もいる。
- ・ 自分に足りない性質を仲間の言動や考え方から学ぼうとする生徒もいるが、大半の生徒は自分と異なった考え方の生徒と関わりをもたない傾向がある。

- 1 主題名 歩調を合わせて
- 2 資料名 遠足で学んだこと
- 3 主題構成表

■内容項目

B- (9) 相互理解、寛容

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。

■価値の分析

・人はそれぞれもの見方や考え方が異なる。個性があるため、互いが相手の考え方や立場を尊重することが大切である。また、寛容の心をもてば、人を助、受け入れ、他者のよい面を積極的に認めようとすることができる。互いのもつ異なる個性を見つけ、違いを認め、謙虚な心をもって他に学び、自己を高めることが大切である。
 ・この時期の生徒は、お互いにももの見方や考え方に差異があると気付きながらも自分本位になって衝突したり、考え方の違いから友人関係に摩擦が生じることで、孤立したりする。しかしその一方で、自分の考えや意見を伝えることの大切さを感じる機会も増える。
 ・いろいろなもの見方や考え方から学び、自分自身を高め、他者とともに生きるという自覚を伴った気持ちで判断し、行動することの大切さを理解させたい。

■内容項目から見た生徒の実態

・仲間の考えを、自分の考えと比較しながら聴く生徒は多い。また、仲間の考えを聴いて、はっとしたり、納得したりした経験をもつ生徒も多い。
 ・仲間の言動に注意をしたり、声を掛けたりする一方で、仲間との衝突を避けるために自分の考えを直接伝えなかったり、自分の思いを優先して相手の意見を聴こうとしなかったりする生徒もいる。
 ・自分に足りない性質を仲間の言動や考え方から学ぼうとする生徒もいるが、大半の生徒は自分と異なった考え方の生徒と関わりをもたない傾向がある。

■要因

・自分の考えに自信がないため、考えを補強するために仲間の考えに強い興味や関心をもっている。
 ・自分の立場や周りとの関係が壊れることを恐れ、仲間に対して自分の考えや意見を表出せず、自分の中に留めてしまう。
 ・一対一中で人間関係が固定化する傾向があるため、他者に対して「言っても変わらない」という思いをもち、働きかけることに半ば諦めの念を抱いている。

■資料の分析

・遠足中、班行動を守り、決まりを尊重しようとする周囲に気を遣う「ぼく(藤野)」と、自分の得意な植物の説明に気を遣う「吉川君」の2人が衝突を乗り越えて、互いの理解を深めていく資料である。
 ・2人とも、遠足をよいものにしたという願いをもっている。しかし「ぼく」には、時間や決まりに几帳面で大筋を変えない一貫性があり、一方で「吉川君」には趣味を生かした心のゆとりと人を喜ばせる性質がある。自分の考えと相手の考えとの差異に悩む「ぼく」の気持ちに共感させたい。その後、2人が互いの意見を伝え合ったことが、互いの理解を深めたことに気付かせ、自分の意見を伝えることの大切さについて考えさせる。
 ・「ぼく」と「吉川君」の衝突を切り抜けるために班長の板巻君が言った言葉が「みんなちがって、みんないい」という金子みすゞの詩だった。この言葉の意味について考えることを通して、自分とは異なる個性や立場を尊重し、願いは同じでもやり方が異なったときに、相手の思いを知ろうとする態度を育てることにつなげたい。

■ねらい

同じ願いをもちながらも衝突してしまった「ぼく」と「吉川君」について考えることを通して、異なる個性や立場を尊重し、相手の思いを知ろうとする態度を育てる。

■展開の構想

・友達と考えや意見が上手く合わなかった経験について共有し、価値の方向付けをする。
 ・「ぼく」と「吉川君」がぶつかってしまった時の状況を考え、遠足をよりよいものにしたという同じ願いをもっていることに気付く。
 ・「吉川君」とぶつかりながらも共通の願いがあることに気付く、互いの考えを理解し合えた「ぼく」について考え、自分の考えを伝えたり、相手を知ろうしたりすることの大切さに気付く。
 ・導入で振り返った経験など自分の生活を想起し、今後の自分の生活に繋げていくことで、異なる個性や立場を尊重し、願いは同じでもやり方が異なったときに、相手の思いを知ろうとする態度を育てる。

■基本発問(◎中心発問)

○友達と考えや意見が上手く合わなかった経験はありますか。そのとき、どのようなことを感じましたか。
 ○「ぼく」と「吉川君」がぶつかってしまったのはどうしてだろう。
 ◎改めて「みんなちがって、みんないい」という言葉を思い出したのはどのような思いからだろう。
 ○自分とは異なる相手のよさから学んだことを生かすためには、どのようなことが大切だろう。

【資料】

2年1組指導案

B-(9)相互理解、寛容 「遠足で学んだこと」

展開前段

5 本時の展開

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	1. 価値に関わる自分の感じ方・考え方をもつ。 ○友達と考えや意見が上手く合わなかった経験はありますか。そのとき、どのようなことを感じましたか。 ・授業で「全員挙手」を目指して声を掛けていたが、同じ班の一人が答えが分かっているのに全然挙手してくれなくて悲しくなった。 ・スポーツの集いの大縄跳びで、回数を多く跳ぶために縄を速く回した方がいいと思ったけれど、友達に速くせずに確実に跳んだ方がいいと言ったので、不満に思った。	・事前友達と考えや意見が上手く合わなかった経験についてアンケートを行う。 ・同じ目標をもちながらも友達と考えや意見が上手く合わなかった経験を取り上げ、価値の方向付けをする。
	2. 資料「遠足で学んだこと」を読み、話し合う。 ○「ぼく」と「吉川君」がぶつかってしまったのはどうしてだろう。 ・「ぼく」は班のみんなで一緒に行動することが大切	・資料を読んで、「分かるなあ」と共感した部分を交流し、「ぼく」と「吉川君」の思いの違いをおさえる。 ・班行動を守り、決まりを尊重しようと周囲に気を遣う「ぼく」の姿と、自分の得意な植物の説明に気を遣う「吉川君」の姿に共感させる。 「ぼく」と「吉川君」の大切にしたいことが違う事を押さえる。その上で、なぜ大切にしているかを考えさせることで両者とも遠足をよりよいものにしたという願いをもっていることに気付かせる。

◎改めて「みんなちがって、みんないい。」という言葉
葉を思い出したのはどのような思いからだろう。

- ・「ぼく」と「吉川君」の個性はそれぞれ違うけれど、どちらの個性も尊重されるべきだ。
- ・「ぼく」も「吉川君」も遠足をよりよいものにした
いという思いは一緒だった。
- ・「吉川君」の思いを聞いたから、「吉川君」も「ぼく」と同じように、遠足をよりよいものにした
いと思っていたことが知れた。
- ・「ぼく」も「吉川君」も遠足をよりよいものにした
いという思いは一緒だったのだから、大切にしたい
ことを伝え合って、お互いの意見を取り入れて
登山をすればよかった。
- ・さっきは理解できなかったけれど、改めて「吉川
君」と話してみると、「吉川君」の言葉や行動には、
自分のことをよく理解しているからこそその信念
があるからすごい。でも、「ぼく」にも自分のよさ
があるから、そのよさを大事にしていきたい。

- ・自分の考えをカードに書いてから、クラスで共有す
る。共有したカードをもとに交流し、多様な意見
を取り入れて考えを深めさせる。(タブレット使用)
- ・「吉川君」とぶつかりながらも互いの考えを理解し
合えた「ぼく」の心情について考えさせる。
- ・「ぼく」のすごいところはどこか改めて着目させたり、
「ぼく」や「吉川君」が自分の思いを伝えてい
なかったらどのようになっていたかを考えさせたり
することで、自ら相手のことを理解しようとした行
動の素晴らしさに気付かせる。

【評価の視点】

「吉川君」とぶつかりながらも共通の願いが
あることに気づき、互いの考えを理解し合えた
「ぼく」の心情について、仲間との交流を通し
て、自分と違う立場や感じ方、考え方を理解し
ようとしている。

自分の考えをカードに書いてから、クラスで共有す
る。共有したカードをもとに交流し、多様な意見
を取り入れて考えを深めさせる。(タブレット使用)
「吉川君」とぶつかりながらも互いの考えを理解し
合えた「ぼく」の心情について考えさせる。
「ぼく」のすごいところはどこか改めて着目させたり、
「ぼく」や「吉川君」が自分の思いを伝えてい
なかったらどのようになっていたかを考えさせたり
することで、自ら相手のことを理解しようとした行
動の素晴らしさに気付かせる。

【評価の視点】

「吉川君」とぶつかりながらも共通の願いが
あることに気づき、互いの考えを理解し合えた
「ぼく」の心情について、仲間との交流を通し
て、自分と違う立場や感じ方、考え方を理解し
ようとしている。

導入で振り返った経験など自分の生活を想起させ
ながら、授業を通して考えたことをワークシートに
記入させる。

異なる個性や立場を尊重し、願いは同じでもやり方
が異なったときに、相手の思いを知ろうとする態度
を育てる。

【資料】

きらめき2組（特別支援学級）指導案

C-（13）勤労

「世界がおどろく七分間清掃」

導入

1. 価値の方向付けをする。

○私たちの周りで働いている人は、どんな思いで働いているのだろうか。

- ・生活するためのお金がほしい。
- ・病気やケガをした人を元気にしたい。
- ・利用する人みんなが楽しめる物を作りたい。

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	<p>1. 価値の方向付けをする。</p> <p>○私たちの周りで働いている人は、どんな思いで働いているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活するためのお金がほしい。 ・病気やケガをした人を元気にしたい。 ・利用する人みんなが楽しめる物を作りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の例を挙げたり、物を提示したりして、イメージしやすいよう手助けする。（飲食店の店員、テーマパークの従業員、教科書を作る人、ゲームを作る人、野菜を作る人など） ・自分たちの周りにはどのような仕事をしている人たちがいるか、日常生活と関連付けて気付かせる。
展開前段	<p>2. 資料「世界がおどろく七分間清掃」を読み、話し合う。</p> <p>○新幹線清掃の「世界にじまん」できる場所はどこところだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たった7分間で清掃を行うところ。 ・お客さんへの声掛けも行うところ。 ・車内清掃だけでなく、お客さんのゴミを受け取る気配りがあるところ。 ・整理しておじぎをしながら新幹線を迎えるところ。 ・清掃員の声掛けにより、お客さんが嬉しい気持ちになる。 ・自分だけでなく、お客さんのために工夫をしている。 <p>◎新幹線の清掃員さんたちはどんな気持ちでおじぎをしているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いってらっしゃい」という気持ち。 ・自分たちできれいにした車内でゆっくり過ごしてほしい。 ・お客さんに喜んでほしい。 ・気持ちを込めて掃除している。 ・お客さんのために頑張ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読む前に「新幹線の7分間清掃」の動画を視聴し、新幹線清掃のイメージをもつ。 ・どのような工夫をしながら清掃を行っているのか、自分たちの掃除とどう違うのか、どういったところが世界から驚かされているのかなどに、注目するように声掛けを行う。 ・「ぼく」が「世界にじまん」できると思ったところに注目して聞くように促す。 ・清掃をしている場面や、お客様の対応をしている場面の画像に、チェックや自分の考えを書き込ませる。（タブレット使用） ・すごいと思った技術や、感動した言葉など、それぞれの思ったことをたくさん挙げさせる。 ・意見が出にくい場合は、清掃員の言動によって、どのようなよいことがあるかを考えるよう促す。 ・自分たちの掃除との違いを考えさせる。 ・決まりごととしておじぎをしているだけでなく、どのような気持ちを込めたおじぎなのか、実際におじぎの動作を行いながら、自分の考えやせりふを発表させる。
展開後段	<p>3. 本時の学習を振り返る。</p> <p>○自分はどういうことを大切にして働きたいか、また、今から自分たちにできることは何だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客さんや、利用する人の気持ちを考える。 ・みんなが気持ちよく過ごせるように、普段の掃除をもっと丁寧に隅々までやろう。 ・黒板消しの仕事を、ただ黒板を消すだけでなくきれいになるまで丁寧にやろう。 	<p>【評価の視点】</p> <p>働くことの意義や喜びについて理解しようとしている。また、自分にできることを考え、これからの生活の中で実践していこうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中の場面を例に挙げて、イメージしやすいようにする。（掃除、給食当番など） ・今までの自分の姿で、続けていきたいことや、伸ばしていきたいことは何かを考えるようにする。
終末	<p>4. 教師の話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アルバイトでの体験談を話し、職場見学で働くことについてより深く考えることができるようにする。

【資料】

きらめき2組（特別支援学級）指導案

C-（13）勤労

「世界がおどろく七分間清掃」

展開後段

【評価の視点】

- ① 働くことの意義や喜びについて理解しようとしている。
- ② 自分にできることを考え、これからの生活の中で実践していこうとしている。

- ・日常生活の中の場面を例に挙げて、イメージしやすいようにする。（掃除、給食当番など）
- ・今までの自分の姿で、続けていきたいことや、伸ばしていきたいことは何かを考えるようにする。

5 本時の展開

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	1. 価値の方向付けをする。 ○私たちの周りで働いている人は、どんな思いで働いているのだろうか。 ・生活するためのお金がほしい。 ・病気やケガをした人を元気にしたい。 ・利用する人みんなが楽しめる物を作りたい。	・場面の例を挙げたり、物を提示したりして、イメージしやすいよう手助けする。（飲食店の店員、テーマパークの従業員、教科書を作る人、ゲームを作る人、野菜を作る人など） ・自分たちの周りにはどのような仕事をしている人たちがいるか、日常生活と関連付けて気付かせる。
展開前段	2. 資料「世界がおどろく七分間清掃」を読み、話し合う。 ○新幹線清掃の「世界にじまん」できるところはどこだろうか。 ・たった7分間で清掃を行うところ。 ・お客さんへの声掛けも行うところ。 ・車内清掃だけでなく、お客さんのゴミを受け取る気配りがあるところ。 ・整理しておじぎをしながら新幹線を迎えるところ。 ・清掃員の声掛けにより、お客さんが嬉しい気持ちになる。 ・自分だけでなく、お客さんのために工夫をしている。	・資料を読む前に「新幹線の7分間清掃」の動画を視聴し、新幹線清掃のイメージをもつ。 ・どのような工夫をしながら清掃を行っているのか、自分たちの掃除とどう違うのか、どういったところが世界から驚かされているのかなどに、注目して見るように声掛けを行う。 ・「ぼく」が「世界にじまん」できるところと思ったところに注目して聞くように促す。 ・清掃をしている場面や、お客様の対応をしている場面の画像に、チェックや自分の考えを書き込ませる。（タブレット使用） ・すごいと思った技術や、感動した言葉など、それぞれの思ったことをたくさん挙げさせる。 ・意見が出にくい場合は、清掃員の言動によって、どのようなよいことがあるかを考えるよう促す。 ・自分たちの掃除との違いを考えさせる。
展開後段	◎新幹線の清掃員さんたちはどんな気持ちでおじぎをしているのだろうか。 ・「いってらっしゃい」という気持ち。 ・自分たちできれいにした車内でゆっくり過ごしてほしい。 ・お客さんに喜んでほしい。 ・気持ちを込めて掃除している。 ・お客さんのために頑張ろう。	・決まりごととしておじぎをしているだけでなく、どのような気持ちを含めたおじぎなのか、実際におじぎの動作を行いながら、自分の考えやせりふを発表させる。
終末	3. 本時の学習を振り返る。 ○自分はどのようなことを大切にしたいか、また、今から自分たちにできることは何だろうか。 ・お客さんや、利用する人の気持ちを考える。 ・みんなが気持ちよく過ごせるように、普段の掃除をもっと丁寧に隅々までやろう。 ・黒板消しの仕事を、ただ黒板を消すだけでなくきれいになるまで丁寧にやろう。	【評価の視点】 働くことの意義や喜びについて理解しようとしている。また、自分にできることを考え、これからの生活の中で実践していこうとしている。 ・日常生活の中の場面を例に挙げて、イメージしやすいようにする。（掃除、給食当番など） ・今までの自分の姿で、続けていきたいことや、伸ばしていきたいことは何かを考えるようにする。
終末	4. 教師の話を聞く。	・アルバイトでの体験談を話し、職場見学で働くことについてより深く考えることができるようにする。

【資料】

1年4組指導案

A- (3) 向上心、個性の伸長 「自分の性格が大嫌い！」

■価値の分析

- 個性を伸ばすとは、固有の持ち味をよりよい方向へ伸ばし、より輝かせることである。自分自身で嫌だと思っている所も、見方を変えて磨きをかけることで、輝く個性になり得るのである。前向きな取組を繰り返す中で、おのずと体得される。
- 中学生のこの時期は、自己理解が深まり、自分の在り方や性格についての関心が高まってくる。その一方で、他人と比較して劣等感を抱いたり、性格に思い悩んだりすることが少なくない。

■内容項目から見た生徒の実態

- 自分の性格に合った役割に意欲的に取り組み、自ら活動方法を考え、活動できる生徒が多い。
- 自分と周りを比較し、係活動や勉強に向かう姿から、さらに頑張ろうとする姿がある一方で、劣等感に悩み、不安になる生徒もいる。
- 自分に自信をもてずに新しいことに挑戦することに尻込みする生徒がいる。

1 主題名 自分との付き合い方を考えよう

2 資料名 自分の性格が大嫌い！

3 主題構成表

■内容項目

A- (3) 向上心、個性の伸長
自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。

■価値の分析

個性を伸ばすとは、固有の持ち味をよりよい方向へ伸ばし、より輝かせることである。自分自身で嫌だと思っている所も、見方を変えて磨きをかけることで、輝く個性になり得るのである。前向きな取組を繰り返す中で、おのずと体得される。

中学生のこの時期は、自己理解が深まり、自分の在り方や性格についての関心が高まってくる。その一方で、他人と比較して劣等感を抱いたり、性格に思い悩んだりすることが少なくない。

本時を通して自分との付き合い方(自己との対話)を考える習慣を身に付けることで、自尊心を高め、向上心や個性を伸ばし、今後の生き方に生かしてほしいと考えた。

■内容項目から見た生徒の実態

- 自分の性格に合った役割に意欲的に取り組み、自ら活動方法を考え、活動できる生徒が多い。
- 自分と周りを比較し、係活動や勉強に向かう姿から、さらに頑張ろうとする姿がある一方で、劣等感に悩み、不安になる生徒もいる。
- 自分に自信をもてずに新しいことに挑戦することに尻込みする生徒がいる。

■要因

- 小学校6年間の中で互いの性格を理解しており、それぞれに合った役割に自信をもって取り組むことができています。
- 自分がやりたいことに対して、仲間からの協力が得られなかったり、思いに共感してもらえなかったりすると自信がなくなってしまう。
- 仲間の姿と比較し、自分の理想とする姿がかけ離れている場合があり、不安になる。

■資料の分析

・中村うさぎ氏の辛口エッセイである。作者の短所の捉え方や、人間のもっている「短所と長所」は裏表であり、自分の「短所と長所」の両方を公平に見つめることで人生が楽になるという主張は、生徒にとって、新鮮に感じるはずである。

・長所は短所であり、短所は長所とも捉えられることに気付かせ、仲間と短所を長所に言い換える活動を通して、「自分にはこんなよいところがあるんだ。」と互いに気付かせ、自尊心を高めることができる。

・自分との付き合い方(自己との対話)を考える習慣を身に付けることで、自尊心を高め、向上心や個性を伸ばし、自分らしい生き方を追求しようとする心情を育てたい。

■ねらい

「自分との付き合い方」を大切にしようとする作者の考えに共感し、自分のもっているよさや個性の発見に努め、それを肯定的に捉え、伸ばしていこうとする心情を育てる。

■展開の構想

- 自分の性格についてどう思うかを問い、価値の方向付けをする。
- 作者の自分の長所や短所の見方についての考え方に気付くことにより、自分の性格を前向きに捉えている作者の姿勢に共感する。
- 短所は、見方を変えれば長所とも捉えることができるという「自分との付き合い方」を覚えると、人生が楽になることに気付かせ、自分のよさを深める。
- 今の自分の長所や欠点にどのように向き合いかを考え、個性を伸ばしていこうとする心情を育む。
- 導入部分で記入した自分の長所や短所、仲間とのリフレミングを通して、これから自分の性格や特徴とどのように付き合っていきたいかについて、授業を通して考えたことを書く。

■基本発問(◎中心発問)

- 自分の性格について、長所と短所は何ですか。
- 「分かるなあ」「すごいなあ」と思ったところはどこですか。
- ◎「自分との付き合い方」を覚えると、人生が楽になるのはどうしてだろうか。
- 自分の短所は、見方を変えたとどのように言い換えられるだろうか。
- これから自分の性格や特徴とどのように付き合っていきたいかについて、授業を通して考えたことを書こう。

【資料】

1年4組指導案

A-(3) 向上心、個性の伸長 「自分の性格が大嫌い！」

導入

1. 価値に関わる自分の感じ方・考え方をもち。
○自分の性格について、長所と短所は何ですか。
- ・長所 優しい 思いやりがある ムードメーカー 友達を大切にできる
 - ・短所 継続することができない 集中力がない すぐには行動できない

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	1. 価値に関わる自分の感じ方・考え方をもち。 ○自分の性格について、長所と短所は何ですか。 ・長所 優しい 思いやりがある ムードメーカー 友達を大切にできる ・短所 継続することができない 集中力がない すぐには行動できない	・自分の長所や短所がすぐイメージできるように、日頃からの「よさみつけ」を継続的に行っていく。 ・一人一つではなく、複数の長所や短所をワークシートに書かせる。
展開前段	2. 資料「自分の性格が大嫌い！」を読み、話し合う。 ○「分かるなあ」「すごいなあ」と思ったところはどこですか。 ・基本的な性格は変えられない。 ・「長所」と「短所」は結局、同じ部分の裏表である。 ・自分を観察したり、分析したりすると、自分に客観的な視点をもてるようになる。 ・自分の性格は「一長一短」で、良いところも、悪いところもある。 ◎「自分との付き合い方」を覚えると、人生が楽になるのはどうしてだろうか。 ・短所ばかり目立ってしまうが、見方を変えると長所になる。気持ちが楽になる。 ・短所=いけないことのような考え方をしなくてよい。 ・長所と向き合うことで、さらに伸ばしていこうと思うことができる。 ・自分のことを客観的に見ることで、長所に隠れた短所を見つけることができ、自己を振り返ることができる。	・教師の範読を聞きながら、「分かるなあ」「すごい」と共感した部分に線を引かせることで、心が動いた部分を視覚的に示させる。 ・性格はその人のもつ個性で基本的に直らないという考え方に共感させる。 ・作者の「自分の短所や長所」に関する考え方に共感させる。 ・「長所」や「短所」とうまく付き合うことは、自分とどのように付き合っていくのかということにつながることを理解させる。 ・自分の考えをカードに書いてから、クラスで共有する。共有したカードをもとに交流し、多様な意見を取り入れて考えを深めさせる。(タブレット使用) ・他の生徒の考えを知り、自分の考えと比べることで、充実した生き方についての考えを広げ深めさせる。
展開後段	3. 本時の学習を振り返る。 ○自分の短所は、見方を変えるとどのように言い換えられるだろうか。(個人→グループ活動) ・マイペース一人の意見に流されない ・緊張しやすい→何事も真剣に取り組む ○これから自分の性格や特徴とどのように付き合っていきたいかについて、授業を通して考えたことを書こう。 ・私は、心配性な自分が嫌だった。しかし、今日の授業を通して、欠点ではなく、計画を立て慎重に物事を進めることができるという長所になるということが分かった。短所をマイナスと捉えずよさを活かして生活していきたい。	・自分を肯定的に捉えさせるようにする。 ・リフレーミング辞書を準備し、変換が難しい言葉について調べられるようにする。 ・導入で短所として挙げたことを個人やグループで考えさせる。 【評価の視点】 リフレーミングを通して、自分の性格や特徴に気づき、自分とのよりよい付き合い方を考えている。
終末	4. 教師の説話を聞く。	・生徒のよかった姿を価値付けることを通して、自分も持っているよさや個性の発見に努め、個性を伸ばしていく生き方をしようとする心情を育む。

【資料】

1年4組指導案

A-(3) 向上心、個性の伸長 「自分の性格が大嫌い！」

展開後段

- ・自分を肯定的に捉えさせるようにする。
- ・リフレーミング辞書を準備し、変換が難しそうな言葉について調べられるようにする。
- ・導入で短所として挙げたことを個人やグループで考えさせる。

【評価の視点】

リフレーミングを通して、自分の性格や特徴に気づき、自分とのよりよい付き合い方を考えている。

5 本時の展開

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	1. 価値に関わる自分の感じ方・考え方をもつ。 ○自分の性格について、長所と短所は何ですか。 ・長所 優しい 思いやりがある ムードメーカー 友達を大切にできる ・短所 継続することができない 集中力がない すぐに行動できない	・自分の長所や短所がすぐイメージできるように、日頃からの「よさみつけ」を継続的に行っていく。 ・一人一つではなく、複数の長所や短所をワークシートに書かせる。
展開前段	2. 資料「自分の性格が大嫌い！」を読み、話し合う。 ○「分かるなあ」「すごいなあ」と思ったところはどこですか。 ・基本的な性格は変えられない。 ・「長所」と「短所」は結局、同じ部分の裏表である。 ・自分を観察したり、分析したりすると、自分に客観的な視点ももてるようになる。 ・自分の性格は「一長一短」で、良いところも、悪いところもある。 ◎「自分との付き合い方」を覚えると、人生が楽になるのはどうしてだろうか。 ・短所ばかり目立ってしまうが、見方を変えると長所になる。気持ちが楽になる。 ・短所=いけないことのような考え方をしなくてよい。 ・長所と向き合うことで、さらに伸ばしていこうと思うことができる。 ・自分のことを客観的に見ること、長所に隠れた短所を見つけることができ、自己を振り返ることができる。	・教師の範読を聞きながら、「分かるなあ」「すごい」と共感した部分に線を引かせることで、心が動いた部分を視覚的に示させる。 ・性格はその人のもつ個性で基本的に直らないという考え方に共感させる。 ・作者の「自分の短所や長所」に関する考え方に共感させる。 ・「長所」や「短所」とうまく付き合うことは、自分とどのように付き合っていくのかということにつながることを理解させる。 ・自分の考えをカードに書いてから、クラスで共有する。共有したカードをもとに交流し、多様な意見を取り入れて考えを深めさせる。(タブレット使用) ・他の生徒の考えを知り、自分の考えと比べることで、充実した生き方についての考えを広げ深めさせる。
	3. 本時の学習を振り返る。 ○自分の短所は、見方を変えるとどのように言い換えられるだろうか。(個人→グループ活動) ・マイペース一人の意見に流されない ・緊張しやすい→何事も真剣に取り組む	・自分を肯定的に捉えさせるようにする。 ・リフレーミング辞書を準備し、変換が難しそうな言葉について調べられるようにする。 ・導入で短所として挙げたことを個人やグループで考えさせる。
展開後段	○これから自分の性格や特徴とどのように付き合いしていきたいかについて、授業を通して考えたことを書こう。 ・私は、心配性な自分が嫌だった。しかし、今日の授業を通して、欠点ではなく、計画を立て慎重に物事を進めることができるという長所になるということが分かった。短所をマイナスと捉えずよさを活かして生活していきたい。	【評価の視点】 リフレーミングを通して、自分の性格や特徴に気づき、自分とのよりよい付き合い方を考えている。
終末	4. 教師の説話を聞く。	・生徒のよかった姿を価値付けることを通して、自分のもっているよさや個性の発見に努め、個性を伸ばしていく生き方をしようとする心情を育む。

北中の道徳これだけは！

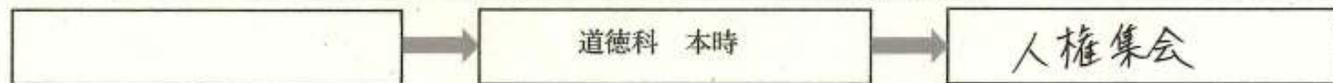
〔 〕月 〔 〕日() 時間目

主題名「いのちを考える ③」 資料名「三つのいのちについて考える」 内容項目 7 - (19)

本時の資料の型	人間理解	価値理解
A型	○	○
B型	×	○
C型	○	×
D型	A~Cに分類されない	

本時の展開 A型		□使用する教具	評価の視点 ①から⑥以外も可
導入	○価値に関わる発問 「奇跡の一週間」「妹に」を読んでどう感じた？ ・いのちには限りがある ・ずっとつながっているんだ	プリント オクリンク ムーブノート ホワイトボード (教科書) ▽学習形態 全体 グループ 個人 ()	一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか ①道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている ②自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている ③複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている 等 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか ④読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている ⑤現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目している ⑥道徳的な問題に対して自己の取り得る行動と他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている 等
展開前段	○線を引きながら読む。 わかる ... 身体には 限界 がある すごい ... (いのちのつながり)の 先端 を生きている どうして ... (自分が「今ここにいる」のは 偶然 なこと ○三つそれぞれの「いのち」が どう いうことを意味しているのか 考え 。 ・「いつか終わりが来るいのち」... いつかは死が来る ・「ずっとつながり、生きているいのち」... 父母から受け継いだいのち ・「今ここにいるいのち」... 生きていられるのは 偶然 なこと ○グループで意見を交換し、仲間の意見を聞いて 気づいたこと を書きましよう。(教科書P.74②③) ・いのちを大切にするのは、自分のためだけではない。 ・与えられたいのちを周りのために役立てたい。 ☆キーワード 【有限性・連続性・偶然性】	「わかる、 自分も同じように 考え ている 「すごい」 そのように 考え 方ができるのはすごい! □オクリンク ▽個人 教科書P.74①に書き、オクリンクに挙げる(写真を撮って挙げる) □教科書 ▽グループ・全体 グループの意見をオクリンクで 見ながら 気づいたことをグループ内で交流する。 その後全体で交流し、仲間と 様々な 考えに 触れる 。	評価の視点 自分とは違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。 生命の3つの捉え、G交流
展開後段	○高められた価値観から自己を見つめる。(自己理解) 「奇跡の一週間」「妹に」で学んだこと 含め 、いのちについて学んだことを書きましよう。	□教科書 ▽個人・全体 「いのちを考える」という主題の しめくり となるように考えをまとめる。	
終末	○教師の説話 生徒の姿の紹介 VTR 記事 (教科書P.75「いのちの復讐」)	最後の2行「輝くものは... 見つけられたから」の意味を考える。(シナリオ映画「 いのちの復讐 」主題歌)	

他の教育活動との関連



【研究内容③】

地域や家庭と連携し、特色ある道德教育の 取組の実践

- 地域や家庭と連携し、ともに創る道德科の授業
- 小学校、PTAや地域と連携して行うあいさつ活動の
充実
- 地域での諸活動やボランティア活動に自主的に参加する
生徒の育成

『誰かにつながる』ボランティア運動

あたたかい心や笑顔、
「ありがとう」の気持ちは、
誰かとのつながりをつくり出します。

あなたの行動が、
あたたかい心や笑顔を広げます。
家庭に、学校に、職場に、みんなの住む町に。



「1家庭1ボランティア」運動は、
豊かな心と行動に満ちあふれた県民風土をつくることを願って進めている県民運動

- 家族と一緒にごみ拾い
- 家庭でのお手伝い
- 学校でのあいさつ活動や花づくり
- 友だちと協力して地域行事の準備 など

自分から進んで取り組み、声をかけ合い、応え合い、「ありがとう」の気持ちを伝えあひましょ。

今日は参観頂き、ありがとうございます。

「家庭」ボランティア実施中です!!

小さなことでOK、誰かにつながるボランティアを。家庭・地域・学校で——。

「何にらいいのかな…」
と困っていたら、お家の
人の活動と一緒に
語ってあげてください。

ゴミ収集のカゴ出し
近所の方、小さい子
のあいさつ
ごはみのお手伝い
クラスで大変な子の
お手伝い
呼びかけと一緒に
ふだんゆっくり話が
できない家族との
会話の時間
etc.



Let's Challenge!

「家庭」ボランティア チャレンジカード

～誰かにつながる!～

日	月	年	氏名	活動内容	実施状況
1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30
31					

2-1は
本日配布します。

Let's Challenge!

命 夢 希望

1家庭1ボランティア チャレンジカード

～誰かとつながる!～

2年2組 氏名



月/日 曜	したこと	してきて思ったこと	うちの人より
例 7/23 木	家の前の溝の泥をすくってきれいにした。	きれいになって気持ちよかった。次は友達と一緒にやってみよう。	
1 10/10 日	朝ごはんを作った	あじわった。自分も食べた。	おいしい。
2 10/10 日	机の上をきれいにした	勉強のやる気が出た。	気持ちよくなった。
3 10/11 月	教科書類をまたづけた	教科書が出しやすくなった。	整理ができた。
4 10/12 火	せんたくを中にこりこした	臭いも少し減った。	きれいになった。
5 10/14 木	食器を洗った	いい匂いになった。	毎日きれい。
6 10/15 金	アイロンをかけた	あつかった。きれいになった。	アイロンは1人でもできる。
7 10/16 土	風呂を掃除した	気持ちよく風呂に入れた。	毎日きれい。
8 10/17 日	机の上をふいた	楽しくなっていた。	きれいになった。
9 10/18 月	お風呂をたたくた	ぬるかった。きれいになった。	お風呂の掃除ができた。
10 10/19 火	食器をまたづけた	疲れた。	洗い物が減った。

◇活動を振り返って◇

いろいろ手伝いをした中で、ちょっとしたことでもした。これこそ、同じ人が言っているけれど、自分の気持ちもよく、それでとてもメリッとすることが分かった。これからはもっと進んで、いろいろな人に役立ちたいと手伝いをしたいです。

清流の国

Let's Challenge!

命 夢 希望

1家庭1ボランティア チャレンジカード

～誰かとつながる!～

2年2組 氏名



月/日 曜	したこと	してきて思ったこと	うちの人より
例 7/23 木	家の前の溝の泥をすくってきれいにした。	きれいになって気持ちよかった。次は友達と一緒にやってみよう。	
1 10/10 日	朝ごはん	食べ物があじわった。心もよくなった。	ありがとう。
2 10/10 日	皿ふき	お母さんの役に立てた。良かった。	助かりました。
3 10/13 水	風呂を洗った	楽しかったから、またやりたいと思えた。	またお風呂したい。
4 10/14 木	夕食の準備	役に立てた。良かった。またやりたいと思えた。	助かりました。
5 10/14 木	お風呂の掃除	楽しかったから、お風呂掃除もよくしたいと思えた。	お風呂掃除したい。
6 10/15 金	夕食の準備	お母さんと同じように良かった。またやりたいと思えた。	毎日ありがとう。
7 10/16 土	夕食の準備	昨日は引き続き手伝って良かった。またやりたいと思えた。	忙しい中ありがとう。
8 10/17 日	皿ふき	お母さんと同じように良かった。	助かりました。
9 10/18 月	夕食の準備	お母さんと同じように良かった。またやりたいと思えた。	練習前にありがとう。
10 10/19 火	朝ごはん	役に立てた。良かった。とても達成感があった。	これからも頑張りたい。

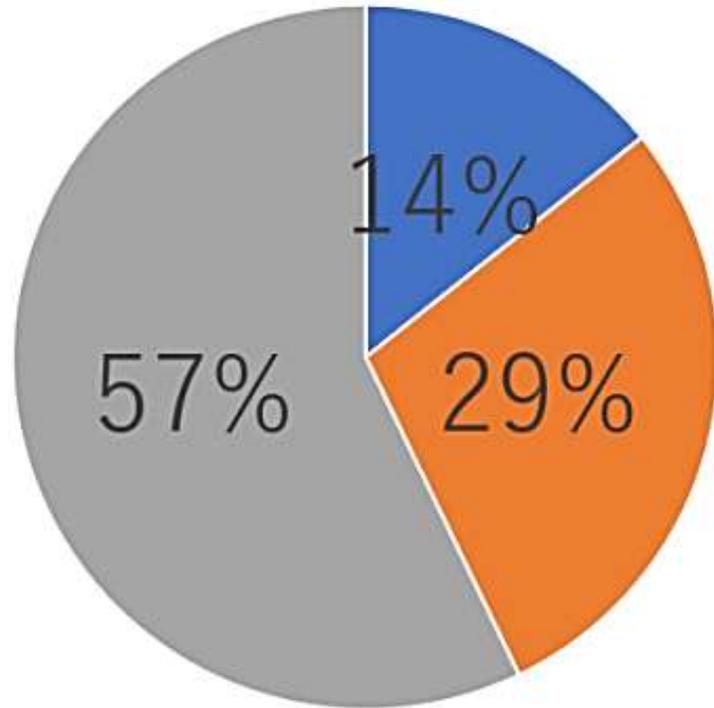
◇活動を振り返って◇

お母さんと同じように積極的に行動し、お母さんの役に立てることができて良かった。お母さんのボランティアを通して、お母さんの気持ちもよく、お母さんと同じようにお母さんの役に立てた。お母さんと同じようにお母さんの役に立てた。お母さんと同じようにお母さんの役に立てた。

清流の国

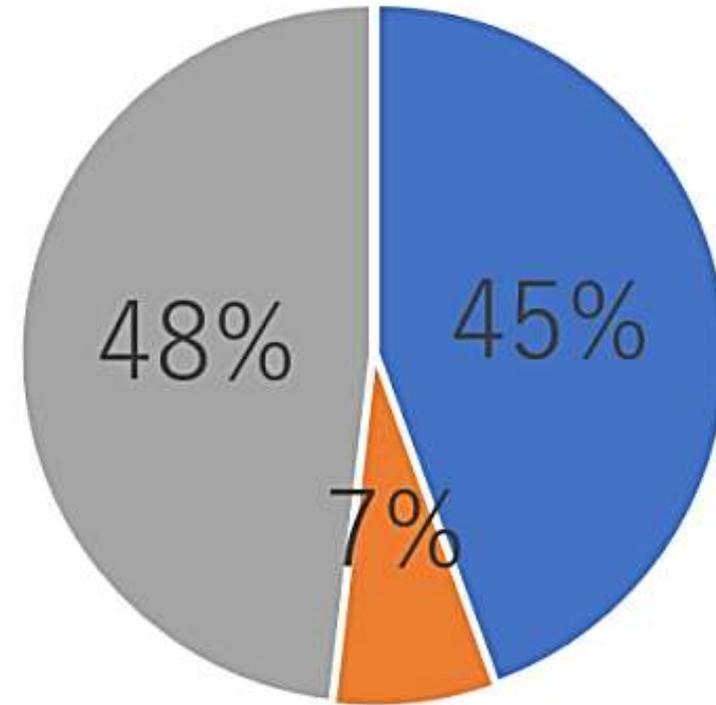
家庭にアンケートをとって道徳科の授業に生かす

みんな（生徒）



- ミサがよくない
- おじいさんがよくない
- どちらもよくない

保護者



- ミサがよくない
- おじいさんがよくない
- どちらもよくない

→後日、道徳の時間の様子を学級通信にて家庭に発信する

2年2組 学級通信 5月26日

たからばこ

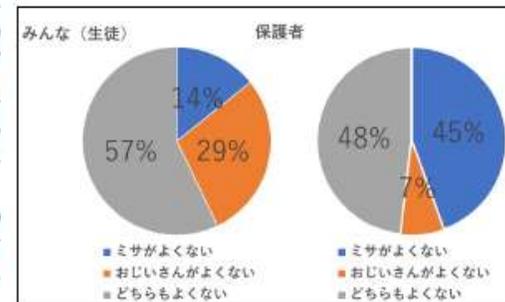
お家の人も
読んでもらって

道徳「宝塚方面行き一西宮北口駅」の授業を終えて

初めてみんなでこの話を読んだ時、「このおじいさんが悪いやろ〜!」「ひどいっ!」という意見がいっぱいでした。その後お家の人の意見も聞いてきてもらいました。

中2のみんなは、同年代のミサの立場になってよく考えてくれたので、公衆の面前で叱るおじいさんに腹を立て、ミサが可哀想だと思っていました。もちろん先生もその気持ちがよく分かります。「こんな風に言われたら、もう電車に乗れないよ」という気持ちもよく分かりましたよ。

しかし、おじいさんだけが悪いのでしょうか。そのことに気付かせてくれたのは、右のグラフと次のようなお家の人のコメントでした。



「もしミサが自分の子だったとして、このまま誰にも注意されることなく大人になってしまったら…と考えると、気付かせてくれたおじいさんには『ありがとう』と言いたいくらいです。」

このことから、みんなにも「もし、このおじいさんに注意されなかったらミサはどんな大人になっていくと思う?」と問うと、「……ああああああ!! 確かに!!!」と、全員が何かに気付かされたようでした。「大勢の人がいる所でも平気で人に迷惑をかけてしまう、嫌な思いをさせてしまう。」と、徐々に公共の場での過ごし方についてだんだんと考えていけるようになりました。ミサのあるべき振る舞いについて考える一方で、おじいさんの注意の仕方も考えていけました。

道徳のお話は、大人になっても深く考えさせられるものがたくさんあります。(以前より読みやすくなっている気もします。)ぜひ、時々お家の人も話題にしてみるとよいですね。今回は、みんなの考えを深めるのに、お家の人とのお話はとてもよかったですね! アンケートやご意見をくれた保護者のみなさん、体験談まで紹介してくださった方、ありがとうございました!!

～授業の振り返りから～

ミサは、友達を思いやれる優しい子だけど、さらに周囲にも気を配ったり、視野を広くしたりすることで、こんなにも大事(おおごと)にはならなかったと思うので、周囲の目も気にしてほしいと思った。おじいさんは100%言ってることは正論だけど、あんなに乱暴な口調で言うと、おじいさんの方に批判がきてしまうので、おじいさんも周囲の目を気にして注意してほしいと思った。私は、この話を通して、今まで以上に周囲の人に気を遣ってほしいと思った。

学級通信

BELIEVE

～自分を信じて 仲間を信じて～

大垣市立北中学校1年3組 学級通信 2020年10月21日 林 のり子

いのちを考える(1)「いのちって何だろう」

昨日の7時間目の道徳で、みんなで「いのち」のイメージマップを作り、授業の終わりに自分の考えをまとめてもらいました。時間がなく、そのときに発表してもらうことができなかったのですが、通信で紹介します。

いのちは、私たちの世界をつくっているものだと思います。何かからたどってくと、いのちにつながるんじゃないかと思ったからです。いのちがないと感情も意思も、自分の性格も、何もできないので、いのちがあるからこそ、動いていられるし、いろんな思いがあるし、何かを感じることができるので、いのちを大切に、感謝して生きていこうと思いました。

→いのちとつながっているものが、たくさんあることに気付いてくれたことがうれしい！そして、自分が生きていることに「感謝」できることが素晴らしい！「感謝」の気持ちがあると、きっと素敵な生き方ができます。

“いのち”がとても大切なことや、世界に1つしかないことを改めて感じて、いのちは、あって当たり前じゃないことが伝わりました。死はいつか来ってしまうけれど、親からもらった大切なものは、最後まで大切にしたいと思いました。

いのちがあるからこそ、生きることができたり、新しいことにチャレンジしたりすることができることから、いのちは、いろいろなものとつながっていることが強く感じられました。

→みんなのいのちは、お家の人からもらった大切なものですね。そのもらったいのちがあるから、生きていられるし、いろんなことに挑戦し、自分を伸ばして、よりよく生きることができるとですね。そこを実感することができたのが、素敵です。

私のいのちは、いつなくなるのかわからないし、いのちは誰もはっきりと分からないものだと思います。私はぜんそくで入院することが何回もあって、そのたびに、他の人が運ばれていくのを見たりしました。だから、やっぱりいのちはだれにでもあるもので、でも、だれでもなくなるもので、だからこそ大切なのだと思います。でも、つらいときに全部がどうでもよくなることもあるけど、もっと生きたいのに、生きられない人もいて、そんなの私よりつらいとおもうので、私はつらいことがあっても前向きにしようと思いました。

→自分の入院したときの経験を思い起こして、いのちについて深く考えています。その経験からも、これから自分がどう生きるかを考えているところが素晴らしい！

この他にもとても素敵なことを書いてくれている人がいました。特にこの3人の人の振り返りが私の心にぐっときました。ぜひぜひ、みんなにも読んでほしくて、通信にしました。「自分との関わり」で自分を見つめて

自分×仲間

1年1組 学級通信
2020年11月25日号

道徳「あなたはひかり」

中学1年生にとって“命”とはどんな形なのだろうか。



人は一人では生きていけない。一人じゃないから生きていける。

学年通信



行動で示す6月スタート!!

5月は、リモートによる「前期生徒総会」や「全校モデル授業参観」、市教委訪問がありました。「前期生徒総会」では、生徒会総務や各委員会のスローガン並びに活動内容について共通理解を図り、前期の見通

道徳コーナー



5月は、「靴」という資料を使って道徳の授業を行いました。外履の紛失で親に心配をかけまいとする主人公と、どんなことがあっても主人公の味方として支えようとする親の気持ちについて考えることを通して、自分たちが「家族の深い愛情」に支えられて生活していることに気付くことができました。

一人一人が「具体的な行動を示していく月」にしていきましょう。

道徳コーナー



5月は、「靴」という資料を使って道徳の授業を行いました。外履の紛失で親に心配をかけまいとする主人公と、どんなことがあっても主人公の味方として支えようとする親の気持ちについて考えることを通して、自分たちが「家族の深い愛情」に支えられて生活していることに気付くことができました。

6月の主な行事

- 1日(火) スポーツの楽しい
- 2日(水) 委員会・議会
- 5日(土) 土曜授業日(空き缶回収)
オンライン授業参観
- 8日(火) 技術期末テスト
- 9日(水) 家庭期末テスト
- 10日(木) 保健体育期末テスト
- 11日(金) 5教科期末テスト
(英語・理科・社会・国語・数学)
- 15日(火) 大垣探訪(給食あり)
- 18日(金) 午前4時間授業(給食あり)
- 25日(金) 部活動壮行会



〈お知らせ〉

6月分の学費円 9,600 円の引き落とし日は、6月7日(月)です。

学校だより

～北辰キラリ☆ちょっと素敵な話～

(このコーナーでは、道徳授業の取組や、生徒・保護者・地域の皆さんのキラリと輝く素敵な姿を紹介します。)

今年度、北中学校では『道徳教育』の研究を行っています。6/24には、1年3組の道徳科の授業を県教育委員会、西濃教育事務所や大垣市教育委員会の先生方に見ていただきました。温かい雰囲気では発表者の意見を聴く姿や自分の考えの変容に自ら気づき発表できている姿を褒めてくださいました。

1年生の道徳授業の様子を見て思ったことがあります。それは、教師の範読中、読み物資料にさっと線を引く生徒の姿が多いことです。確かに読み物資料の中で、主人公に共感する所や問題だと思う所に線を引くことで、範読後に行う『感想交流』に自信をもって挙手することができます。きっと、今までの北小学校の道徳の授業で指導されてきたことなのでしょう。小学校指導のよいところを中学校でも取り入れていきたいと感じた場面でした。



北辰 【学校教育目標】 北中学校
 人間性豊かな 学校だより
 実践力のある生徒 No. 3
 親元・続けよ・思いやれ 53.7.3
 みんなで べんがはか・あ
 北中学校区人権

『スポーツの集い』コロナ禍の中、開催できる喜び・責任

【開会式の、滝礼嗣さん(生徒会長)の話より】

(中略)「校長先生の言葉は、私たちに向けられた『信頼』と開催できることに対する『喜び』、『責任の重み』に気付かせてくれました。」
 (中略)「開催したい、開催させたい、それに全力で応えたいという思いが広がっています。これをOne Teamと誓わずしてなんと呼ぶのでしょうか。」(中略)「一度延期になってしまったけれど、もう一度、心に灯をともし、繋がりが自分より強いものを倒す、あたたかくて柔らかな武器であることを341人で証明しましょう。」



【1年生大垣探訪】

ふるさと大垣のよさを再発見するため、大垣城、護国館、裁判所、市役所、金鯉園、すいぎょく園を見学しました。



【3年生高校説明会】

高等学校の先生方から直接それぞれの学校の特色や生活を知り、正確な進路情報を得ることができました。



～北辰キラリ☆ちょっと素敵な話～

(このコーナーでは、道徳授業の取組や、生徒・保護者・地域の皆さんのキラリと輝く素敵な姿を紹介します。)

今年度、北中学校では『道徳教育』の研究を行っています。6/24には、1年3組の道徳科の授業を県教育委員会、西濃教育事務所や大垣市教育委員会の先生方に見ていただきました。温かい雰囲気では発表者の意見を聴く姿や自分の考えの変容に自ら気づき発表できている姿を褒めてくださいました。

1年生の道徳授業の様子を見て思ったことがあります。それは、教師の範読中、読み物資料にさっと線を引く生徒の姿が多いことです。確かに読み物資料の中で、主人公に共感する所や問題だと思う所に線を引くことで、範読後に行う『感想交流』に自信をもって挙手することができます。きっと、今までの北小学校の道徳の授業で指導されてきたことなのでしょう。小学校指導のよいところを中学校でも取り入れていきたいと感じた場面でした。



【研究内容③】

地域や家庭と連携し、特色ある道徳教育の取組の実践

- 地域や家庭と連携し、ともに創る道徳科の授業
- 小学校、PTAや地域と連携して行うあいさつ活動の充実
- 地域での諸活動やボランティア活動に自主的に参加する生徒の育成





これまでの研究から 【成果】

○道徳教育のカリキュラムマネジメント

○道徳科における指導と評価の一体化

これまでの研究から **【課題】**

- 地域・家庭・学校とが、より連携した
道徳教育の推進
- 道徳科における教材・教具の活用法



ご清聴ありがとうございました